

沖縄県糸満市^{まぶに}摩文仁^{ぼる}ハンタ原遺跡発掘調査報告（2）

－沖縄県糸満市所在の摩文仁ハンタ原遺跡発掘調査報告－

2011

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム
糸満市教育委員会

序

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムでは、日本人の起源とその形質変化を明らかにするとともに、調査研究の成果から未来の形質を予測する試みをおこなっています。

日本人の起源については、南方ルートの解明のために、琉球列島における人類学研究を続けています。縄文時代と弥生時代にヒトの移動や交流があったかどうかを検証するためには、まず沖縄県の縄文時代や弥生時代に相当する時期の古人骨の特徴を明らかにする必要があります。そのためにこの地で人骨の調査と研究を続けています。こうした課題を解明するために1998年と99年に八重瀬町（旧・具志頭村）に所在するガルマンドウ原洞穴遺跡の発掘調査をおこないました。この調査では、人骨と土器および貝製品をセットで発掘することができました。検出された人骨や遺物は土器や理化学的な年代分析によって縄文晩期の所産と推測されています。港川人と縄文人の関係を明らかにするために、さらに古い時代の人骨や遺物を求めて、調査を続けようとしたのですが、大岩に阻まれ、発掘調査を断念しました。出土した人骨は約21体ですが、頭蓋の保存状態が悪く、頭型や顔面の特徴を明らかにすることはできませんでした。

2007年から糸満市にある摩文仁ハンタ原遺跡で人骨の調査を開始しました。この遺跡では人骨の層が厚く、多くの人骨とともに貝製品や土器などが出土し、縄文人の形質的特徴と埋葬方法および縄文文化の一部を知ることができました。07年に出土した人骨と07年と08年に検出した遺物については09年にその成果を報告しました。発掘調査は09年と10年も実施し、当初の目的を達成したので、予定した発掘調査を10年で終了することにしました。出土した人骨と遺物は多く、研究はまだ今後も継続していかなくてはなりませんが、取り急ぎこの4年間で得た成果を公表し、今後の研究の資料としたいと思います。

本遺跡の発掘調査では多くの方にご援助を賜りました。記してお礼申し上げます。

2011年（平成23年）3月

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

館長 松下孝幸

例 言

1. 本報告書は、2009 年度（平成 21 年度）と 2010 年度（平成 22 年度）におこなった沖縄県糸満市に所在する摩文仁ハンタ原遺跡の第 3 次、第 4 次発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムが主体となり糸満市教育委員会の協力を得て実施した。
3. 人骨の実測・トレースは松下真実、中野江里子が、人骨の整理・復元などは松下玲子、磯部美恵子、中野江里子（人類学ミュージアム職員）がおこない、考古遺物の整理・実測・トレースは大城一成、城間千栄子、登真知子、大城愛梨、金城のどか（糸満市教育委員会）がおこなった。
4. 地形測量などは株式会社埋蔵文化財サポートシステム沖縄支店の協力を得た。
5. 本書の編集は松下孝幸がおこない、原稿の執筆は松下孝幸、湖城清、大城一成、松下真実がそれぞれ分担した。

本文目次

第Ⅰ章 序説	5
第 1 節 調査地と調査期間	5
第 2 節 調査に至る経緯	6
第 3 節 調査の目的	6
第 4 節 遺跡の位置と環境	7
第Ⅱ章 調査の内容	7
第 1 節 調査の概要	7
1. 遺跡の立地と概要	7
2. 調査方法と調査の概要	7
第 2 節 層序	9
第 3 節 遺構	9
第 4 節 遺物の検出	9
第 5 節 遺物	12
A. 人工遺物	12
1. 土器	15
2. チャート片	15
3. 貝製品	15
第 6 節 埋葬	19
第 7 節 人骨	20
1. 人骨の出土状況	20
2. 人骨の年代	21
第Ⅲ章 まとめ	22
付篇. 沖縄県糸満市摩文仁ハンタ原遺跡出土の縄文人骨（2）	28

挿図目次

第1図	沖縄本島及び糸満市の位置	8
第2図	遺跡の位置	10
第3図	摩文仁ハンタ原遺跡調査地・平面図	11
第4図	摩文仁ハンタ原遺跡調査地・断面図	13
第5図	遺物の出土位置	14
第6図	遺物実測図1	16
第7図	遺物実測図2	17

挿表目次

第1表	出土遺物一覧表	18
-----	---------	----

図版目次

第1図版	23	
1	現地説明会風景	3 人骨検出風景
2	09年調査開始前	4 ホラ貝検出状況
第2図版	24	
1	貝製品検出状況1	3 人骨出土状況1
2	貝製品検出状況2	4 人骨出土状況2
第3図版	25	
1	顔面頭蓋の検出状況	3 土器の検出状況2
2	土器の検出状況1	4 人骨の検出状況3
第4図版	26	
1	貝製品検出状況3	3 貝製品検出状況5
2	貝製品検出状況4	4 調査終了 埋め戻し後
第5図版	27	
出土遺物1		
第6図版	27	
出土遺物2		

第 I 章 序説

第 1 節 調査地と調査期間

1. 調査地

遺跡名：摩文仁ハンタ原遺跡

所在地：沖縄県糸満市字摩文仁ハンタ原 5 4 7 番地

2. 発掘調査期間

第 1 次調査：2007 年（平成 19 年）7 月 2 日～10 日

第 2 次調査：2008 年（平成 20 年）7 月 7 日～11 日

第 3 次調査：2009 年（平成 21 年）7 月 10 日～17 日

第 4 次調査：2010 年（平成 22 年）6 月 23 日～28 日

3. 組織・調査者・協力者

《組 織》

・発掘調査統括者 松下孝幸（土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム・館長）

・考古学統括者 湖城清（糸満市教育委員会生涯学習課・副参事）

・人類学現場責任者 松下真実（土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム）

・考古学現場責任者 大城一成（糸満市教育委員会生涯学習課）

《2007 年（平成 19 年）》

（1）調査者

松下孝幸、松下真実、磯部美恵子、松下玲子、中野江里子、沖田絵麻

（土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム）

湖城清、大城一成、城間千栄子、登真知子、大城愛梨（糸満市教育委員会）

堤浩一朗、知花一正、喜屋武志保（株式会社 埋蔵文化財サポートシステム沖縄支店）

国吉 勇

高棕浩史（熊本大学文学部 4 年）

（2）協力者

浜田哲二（朝日新聞社）、平野雅俊（株式会社 文化映研）

《2008 年（平成 20 年）》

（1）調査者

松下孝幸、松下真実、松下玲子、中野江里子（土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム）

湖城清、大城一成、城間千栄子、登真知子、大城愛梨（糸満市教育委員会）

堤浩一朗、松浦 智（株式会社 埋蔵文化財サポートシステム沖縄支店）

木口裕史、牛ノ浜修、翁長武司、仲宗根文子、渡辺美幸、青木絵美（株式会社 パスコ）

国吉 勇

井川一成（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科）

《 2009 年（平成 21 年）》

（ 1）調査者

松下孝幸、松下真実、松下玲子（土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム）

湖城清、大城一成、城間千栄子、登真知子、大城愛梨（糸満市教育委員会）

堤浩一朗、松尾直子、宇田員将、知念文乃、喜屋武志保、仲嶺晴代、萩原尚、上原尚樹（株式会社 埋蔵文化財サポートシステム沖縄支店）

小山田常一（長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・助教）

重森正樹（NPO 法人ヒロシマ文化・健康サポートセンター）

国吉 勇

《 2010 年（平成 22 年）》

（ 1）調査者

松下孝幸、松下真実、松下玲子（土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム）

湖城清、大城一成、登真知子、金城のどか（糸満市教育委員会）

堤浩一朗、松尾直子、岸本義彦、萩原尚（株式会社 埋蔵文化財サポートシステム沖縄支店）

重森正樹、濱岡大輔（NPO 法人ヒロシマ文化・健康サポートセンター）

国吉 勇

町田祐一郎（大阪大学 2 年）

4. 遺跡の発見者

国吉 勇

第 2 節 調査に至る経緯

発掘調査報告書 (1) 参照

（沖縄県糸満市摩文仁ハンタ原遺跡発掘調査報告（1）、土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム研究紀要第 4 号：1-58、2009 年）

第 3 節 調査の目的

沖縄県では約 32000 年前の山下洞人や約 18000 年前の港川人などの旧石器時代人骨が出土しているが、それに続く縄文人骨や弥生人骨の出土例は決して多くない。そのために琉球列島では、港川人などの旧石器時代人が縄文時代人へと連続するのか、連続するとすればどのように変化し、現代人の形質を獲得するに至ったかなどは明らかになっていない。

近年、沖縄本島から縄文晩期から弥生前半に相当する人骨が出土し（クマヤー洞穴、具志川島遺跡群、真志喜安座間原遺跡、ガルマンドウ原洞穴、伊礼原遺跡）、縄文晩期人の形質が弥生人と連続しない例が知られるようになってきた。松下は、この事実と数は少ないものの、中国大陸（山東省）に琉球列島の弥生人骨に酷似するものがあるという事実から、縄文晩期から弥生時代にかけて琉球列島にもヒトの移動（渡来）があったのではないかと推測している。しかし、本地域では縄文人骨に関し

ていえば縄文後・中・前期の形質がわからないので、縄文晩期人がそれ以前の人びとと連続しているのかどうかはわからない。琉球列島でのヒトの動きを探る上で縄文時代から弥生時代への移行期の人骨の形質的特徴を明らかにしておくことは重要であるが、同時に縄文時代の各時期の特徴を明らかにし、その形質の変化の解明も必要である（松下、ガルマンドウ原洞穴遺跡発掘調査報告）。このような視点から 1998 年と 99 年に八重瀬町にあるガルマンドウ原洞穴の調査をおこなった。この調査では縄文晩期人骨の例数を増やすとともに縄文中・前期人骨の発掘も期待したが、落石のために掘り下げることができなくなり調査を断念した。

本遺跡では人骨の堆積層が厚く、貝製品などの遺物も多いことから、沖縄本島南部における縄文時代の埋葬や人骨形質を明らかにすることができるだけでなく、縄文後・中・前期人骨の発見も期待できそうなので、本遺跡の調査を計画した。

また、本遺跡は周知の遺跡であったが、遺骨収集によって、遺跡の一部が掘り起こされ、人骨や貝製品などが掘り出されるに至った。大岩の崖下が先史時代にどのように利用されていたかを明らかにすることは、沖縄県で同じような立地が多数存在することから、遺跡を破壊から守るためにも、どうしても必要なことであり、そのために本遺跡の本格的な調査を実施した。

（松下孝幸）

第 4 節 遺跡の位置と環境

① 地理的環境

発掘調査報告書 (1) 参照

② 歴史的背景

発掘調査報告書 (1) 参照

第 II 章 調査の内容

第 1 節 調査の概要

1. 遺跡の立地と概要

発掘調査報告書 (1) 参照

2. 調査方法と調査の概要

1) 第 1 次調査 (2007 年度調査)

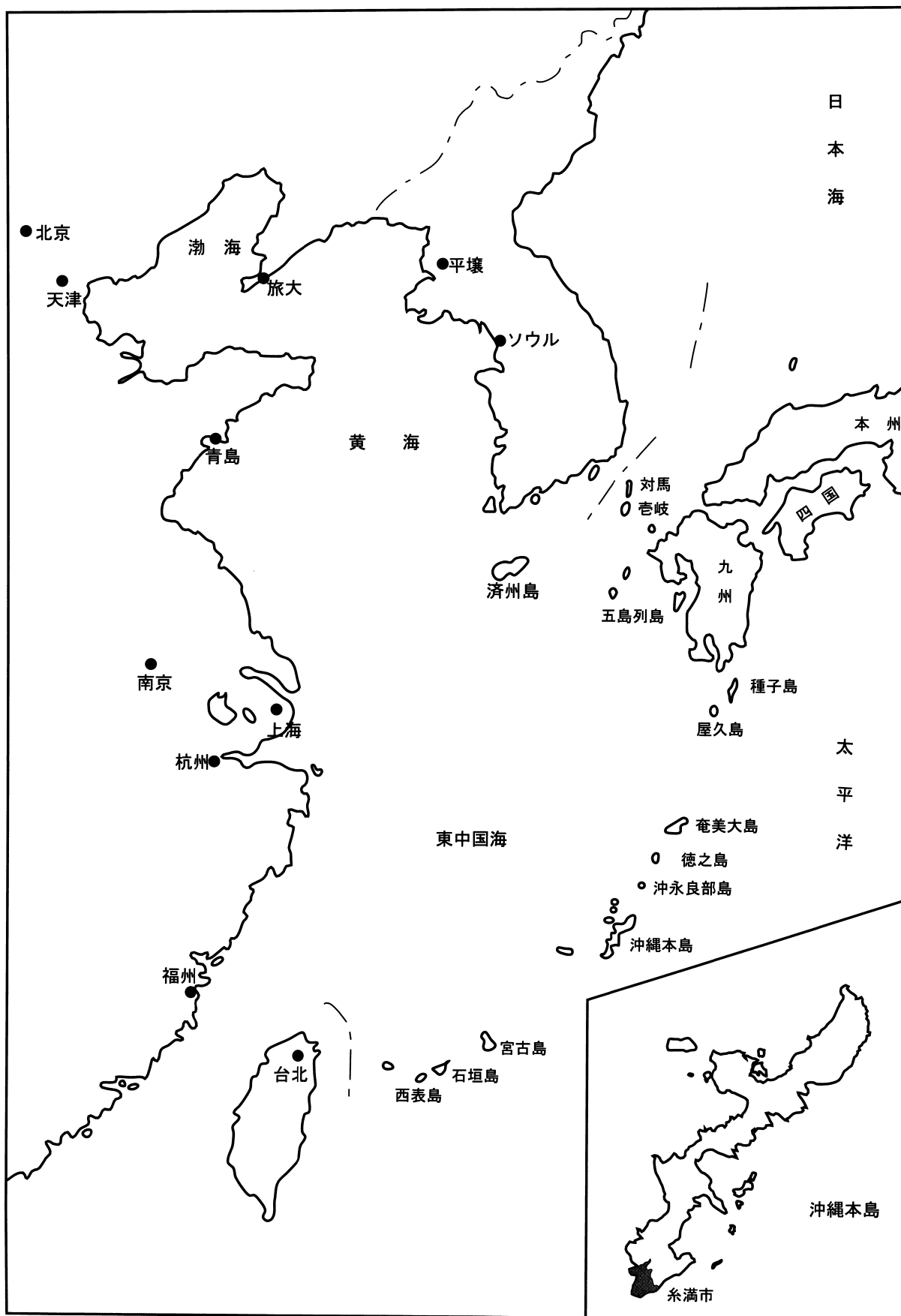
発掘調査報告書 (1) 参照

2) 第 2 次調査 (2008 年度調査)

発掘調査報告書 (1) 参照

3) 第 3 次調査 (2009 年度調査)

第 3 次調査では、集骨 3 において、第 2 次調査で取り上げることができなかった人骨の検出をおこない、新たに貝製品とホラガイ 2 点を検出することができた。ほぼ集骨の最下層まで達したので、最下層人骨の実測をおこなった。岩陰中央部で、岩の基部に近い地点から条痕文土器を検出したので、この地点に 1 m × 1 m のトレンチ (B グリッドー第 2 トレンチ) を設定して、約 10 cm 掘り下げたところ、土器片の側からイノシシの下顎骨を検出した。周辺の詳細な調査が必要と判断して、このトレン



第 1 図 沖縄本島及び糸満市の位置

チのこれ以上の掘り下げはおこなわなかった。また、集骨の東側への広がりを確認するためにAグリッド東側に調査を拡大したところ、貝輪を1点検出した。集骨3において、ほぼ最下層に存在する人骨を取り上げたが、集骨遺構の実測をおこなうまでには至らなかったため、集骨3の最終的な調査とその周辺の調査をおこなうために2010年に第4次調査をおこなうことにした。

3) 第4次調査(2010年度調査)

集骨3において、第3次調査で残した人骨を取り上げ、ほぼ最下層の人骨に達した。このレベルで南側に存在する人骨を残し、北側の人骨を取り上げ、最下層を確認した。最下層の人骨の下層には土がまだ堆積しているが、この堆積土には人骨はほとんど入っていない。岩のきわには斜めに下がる裂け目があって、この裂け目に人骨を入れたものと考えられる。集骨3の人骨坑の最終調査面の平面図と断面図を作成するために実測をおこなった。なお、南側に残した最下層人骨は取り上げないで、保存状態の悪化を最小限度におさえるために、集骨3の土壌を使って埋め戻しをおこなった。

洞穴中央部では、散乱骨の範囲を確認するために第3次調査で設けたB2トレンチ(Bグリッドー第2トレンチ)を南北へ延伸した。さらに、岩陰に沿って、西へも幅30cm～50cmのトレンチを開け、これをC1トレンチ(Cグリッドー第1トレンチ)とした。B2トレンチでは現地表面から10cm～30cmの間(層)から骨片が検出された。その下層からは遺物も人骨も検出されない。また、C1トレンチでも現地表面から10cm～30cmの間(層)から貝小玉が検出された。C1トレンチではこの遺物を包含する層が西へ向かって、岩陰奥へ傾斜していくことが確認された。西側の岩陰も集骨場所として使用されていた可能性が予想される。

(松下孝幸・大城)

第2節 層序

発掘調査報告書(1) 参照

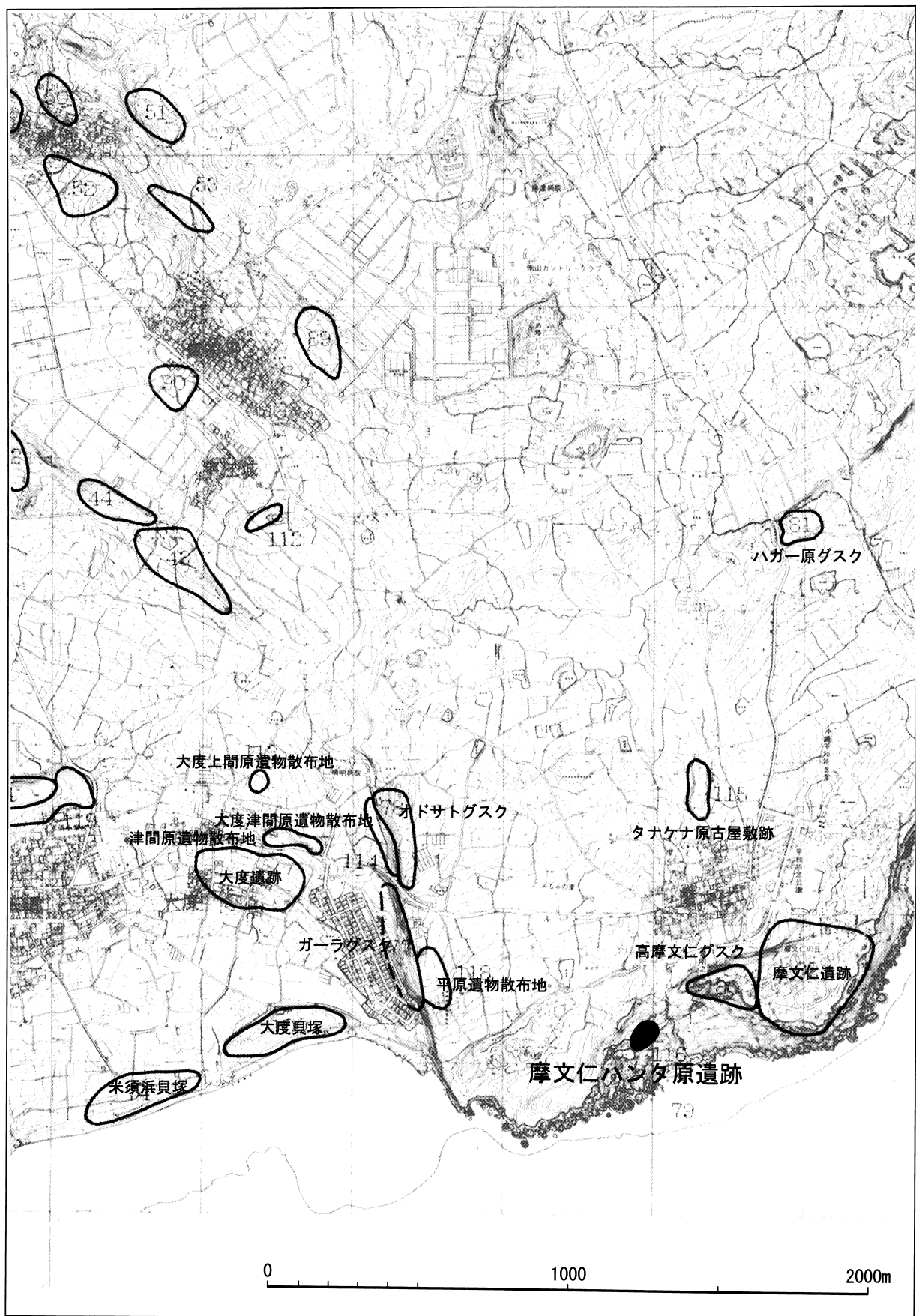
第3節 遺構

第1次調査時に、岩陰南端において石で囲まれた部分から幼児骨が出土した。四肢骨の大部分は攪乱状態で検出されたが、頭蓋と左側肋骨および鎖骨は埋葬状態を保っていた。またこの区画から検出された人骨は4歳ぐらいの幼児骨のみで、人骨の出土状況からこの場所は幼児の一次埋葬場所と推測される。この幼児骨の周辺には転石が残存しており、この岩塊の位置と人骨の配置から推測して、これは配石墓であろう。この遺構とその下層にある厚い人骨層との間には間層が認められる。人骨から¹⁴C炭素年代測定(AMS法)をおこなったところ、 955 ± 30 B.P. という値が得られている。この年代に従えば本例は貝塚時代後期(平安時代相当期)の埋葬跡ということになる。

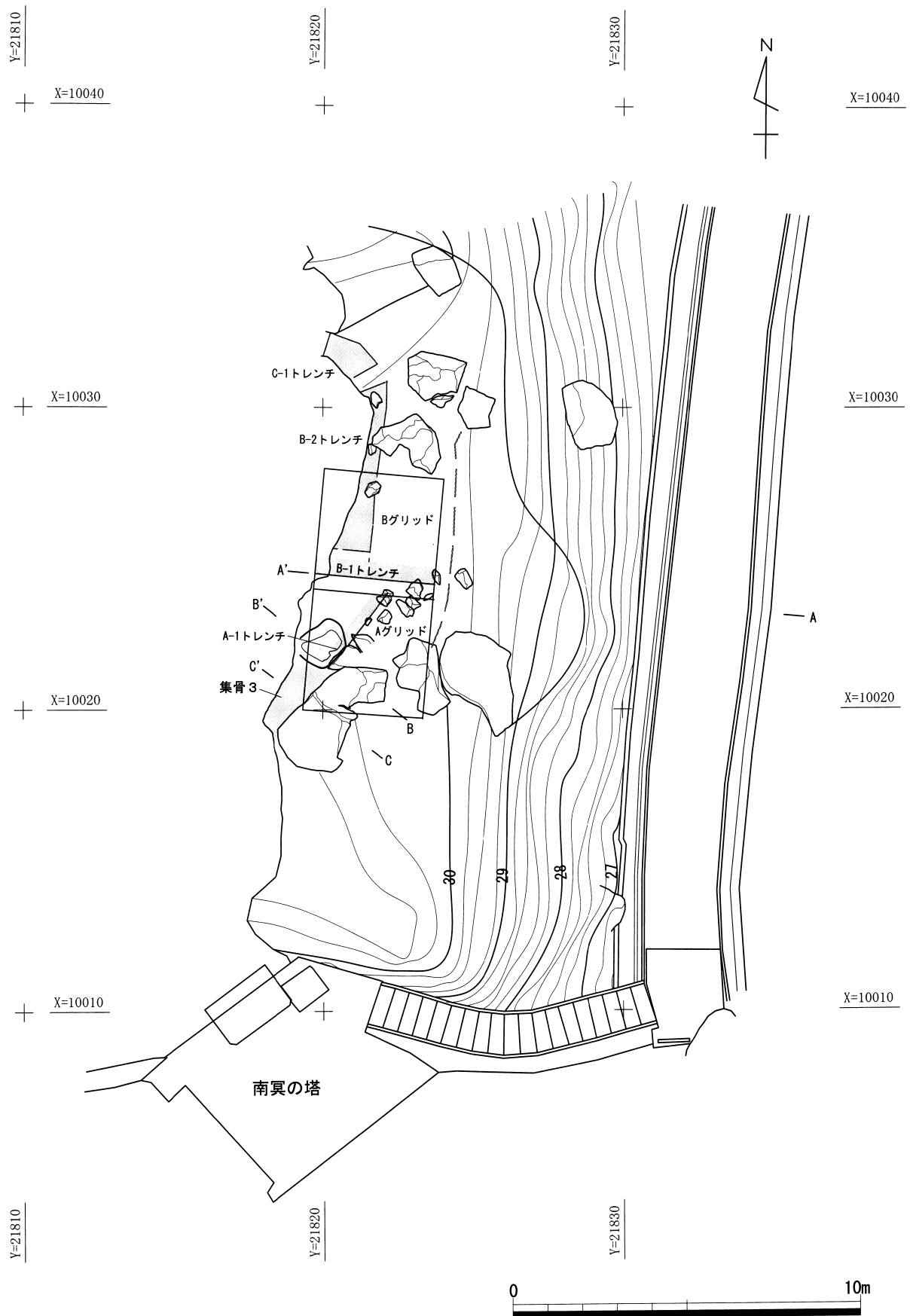
(松下孝幸)

第4節 遺物の検出

本調査地の調査着手前の状況は、落石の散在する草木の繁茂する平坦地であり、調査に伴う除草の際に人骨片や貝製品等の遺物が表面に散乱しているのが確認できた(第4図)。遺骨収集作業に伴って今調査の端緒となった遺物が得られたこともあり、調査当初はこれら遺物の散乱は遺骨収集による



第2図 遺跡の位置



第3図 摩文仁ハンタ原遺跡調査地・平面図

ものと考えられたため、表面採取資料として扱った。

調査グリッドは、岩陰前庭部の南側から北側に向けてAグリッド、Bグリッド、Cグリッドに大別し、必要に応じて層序等確認用のトレンチ（Bグリッド岩陰部のB 2 トレンチ、Cグリッド岩陰部のC 1 トレンチ等）を設定した（第3図）。遺構については、Aグリッド表層において石灰岩礫で囲まれた幼児骨が検出された石囲墓（ST-01）を除いては、明確なものは検出されなかった。

発掘調査は、Bグリッドから開始したが、先述したように調査当初に平坦地の露出遺物を表採したこともあり、Bグリッドでは表面の清掃を行った程度で発掘を止め、Aグリッドへ移動した。Aグリッドは、調査地南端の西側壁面と東側の落石とに挟まれた約5 m²の岩陰部で奥側（南側）にかけて空間が窄まっていく状態であり（第4図）、表層で石囲墓（ST-01）1基とその下層から4か所の集骨が検出された。同グリッドは、Pit X（遺骨収集活動による攪乱坑）を境にして、北側の集骨1・2・4と南側の集骨3とに二分される（第3図）。なかでも集骨3は、多くの人骨が検出され、過去4年に亘る調査の主対象となったものである。集骨3は、岩陰部の最奥部に位置し、長さ250 cm、幅50 cmの範囲で壁面に沿うように頭蓋骨と長骨が混在するように検出された。継続した調査の結果、長骨の位置に規則性はみられなかったが、頭蓋骨は壁面（岩陰部）に沿うように配置されていることが確認できた。特徴的なものとしては、集骨3の北端側でホラガイが検出された。ホラガイは殻口を上方向けるように壁面側に立てかけられた状態で頭蓋骨間に挟まれるように検出された。特に加工痕等はみられなかったが埋葬に伴って配置されたものと考えられる。

表採された遺物を除く殆どの遺物は、Aグリッドの集骨に伴って得られている。集骨1関連遺物には白玉、小玉、タカラガイ製品等が、集骨2関連遺物は白玉、小玉、タカラガイ製品、線刻有孔製品、貝珠、貝輪等が、集骨3関連遺物は土器片、貝輪、小玉、タカラガイ製品、貝珠、巻貝有孔製品、サメ脊椎製品、サメ歯状貝製品等が、集骨4関連遺物は白玉が各々得られている。集骨に関連する多種多様な貝製品は、いずれも埋葬人骨に混在して出土しており、2次葬に伴って人骨ともに移動されたものと考えられる。出土遺物による限り各集骨間での時間差はあまりみられないようである。集骨以外での出土遺物は、石囲墓（ST-01）関連遺物で土器、白玉、石斧が得られており、Pit X（遺骨収集活動による攪乱坑）関連遺物は白玉が得られている。B 2 トレンチでは岩陰部から続く石灰岩上にまとまるように土器、獣骨下顎が検出された。C 1 トレンチでは、人骨が散在し、貝小玉が主に得られている。出土傾向（表土近くからの遺物量が多い）は、集骨3の状況に類似し、同様ならば付近岩陰に埋葬跡が存在する可能性があると考えられる。

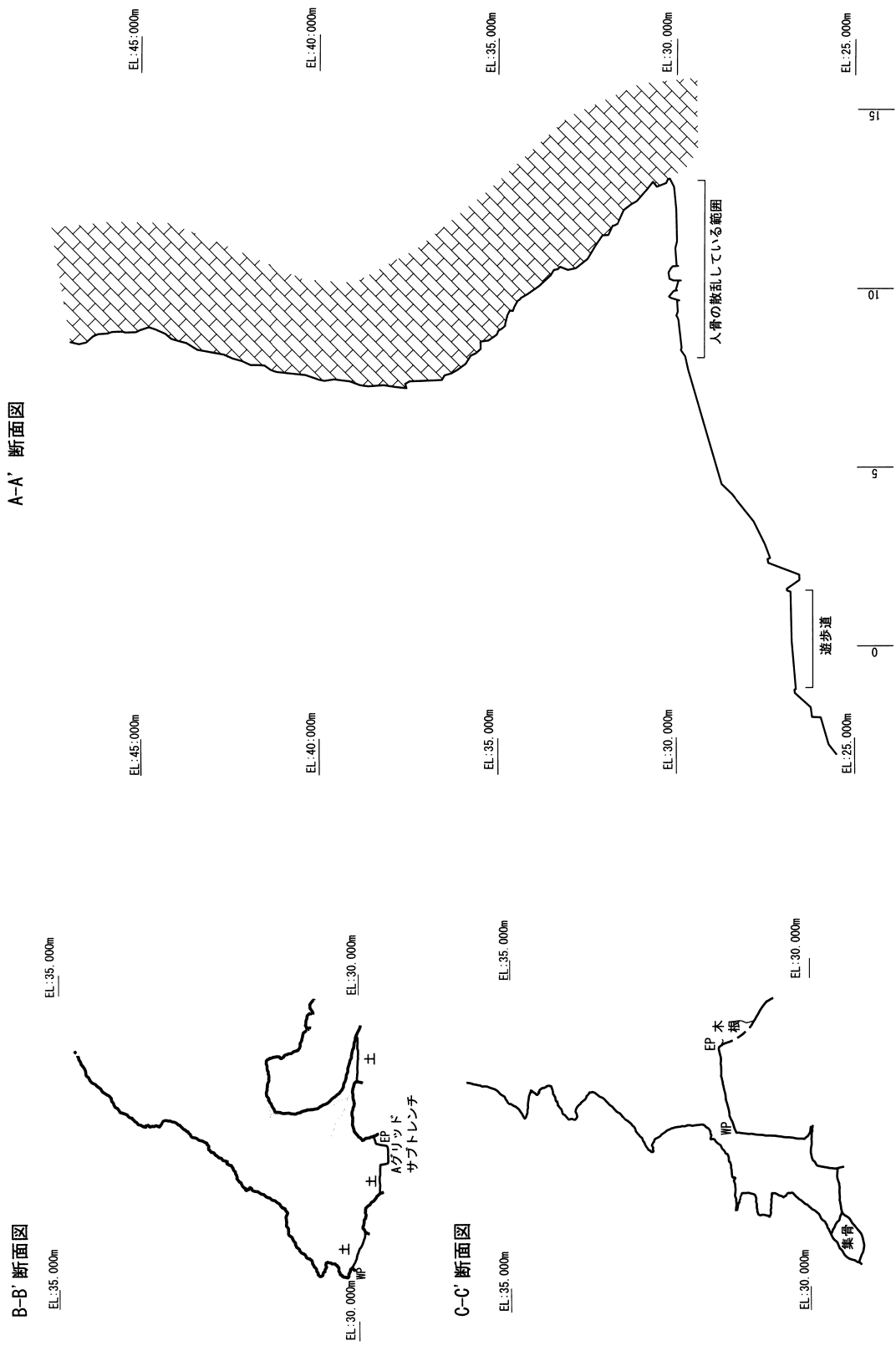
第5節 遺物

A. 人工遺物（第6図1～第7図16）

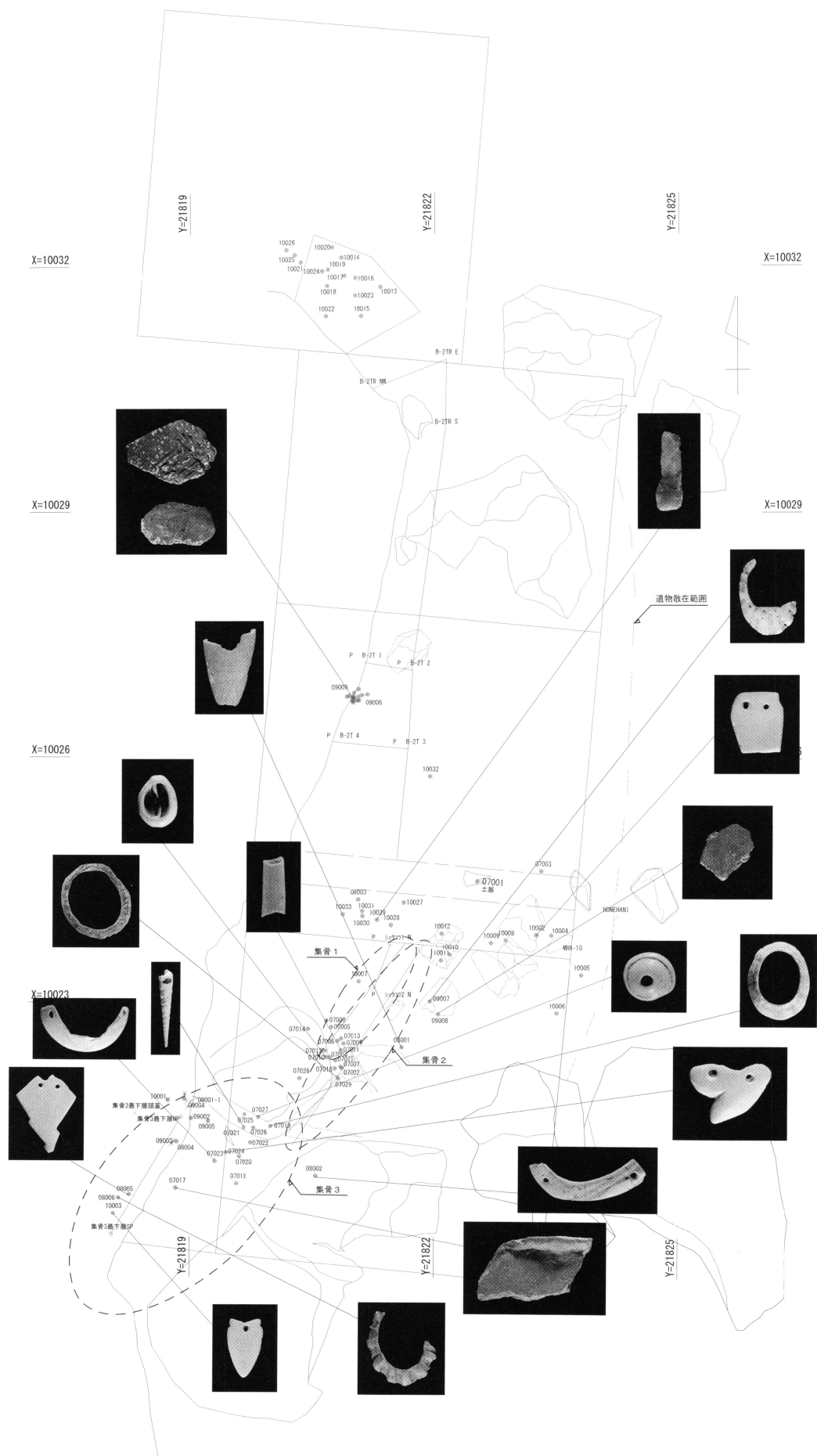
2009年（第3次）調査及び2010年（第4次）調査で得られた人工遺物は、土器、石器、貝製品及びチャート片があり、出土点数は43点である。前回報告と同様に貝製品の出土が目立つ。今報告では、2007年（第1次）調査と2008年（第2次）調査で出土した資料と重複する資料については省略し、新たに出土した資料について報告する。

なお、土器の色調等については以下に拠った。

○農林水産省農林水産技術会議事務局監修 2004年2月『新版標準土色帖 2005年版』日本色研事業株式会社



第4図 摩文仁ハンタ原遺跡調査地・断面図



第5図 遺物の出土位置

1. 土器（第6図1～図7）

第6図1は推算胴径16.8cmの条痕文土器（室川下層式土器？）の胴部片である。単篋により長さ1～2cmの深い沈線を数列を単位として綾杉状に施すようであるが、小破片のため文様構成は不明である。器厚は1cm前後で、器色は内面が褐色（Hue7.5YR4/4）を、外面はにぶい赤褐色（Hue5YR4/4）を呈する。器面調整は外面がナデ仕上げ、内面には条痕が明瞭に残る。胎土は泥質でチャート・石英等の細粒を混入する。焼成はやや脆弱である。B2出土。

第6図2は、直接接合はできないが器面調整及び胎土等の特徴から、第6図1と同一個体とみられる有文胴部片である。器色は内面が褐色（Hue7.5YR4/4）、外面はにぶい赤褐色（Hue5YR5/4）を呈する。B-2の篩掛け土中からの採取。

第6図3は無文胴部片である。内外ともナデ調整が施されているが、外面には器面調整時の擦痕が残る。器色は内面がにぶい赤褐色（Hue5Yr4/4）、外面が褐色（Hue7.5YR4/4）を呈する。胎土は泥質で、チャート・石英・石灰質の微細粒を含む。器厚は0.7cm前後で焼成は良好である。Aグリッド東側の出土。

第6図4は推算底径12.0cmの底部片である。底面近くを欠くため形状は不明であるが、尖底気味の丸底になるとみられる。全面に亘って石灰分が付着しているため器面調整は観察できない。概ね器色は内面が赤黒（Hue2.5Yr2/1）、外面はにぶい赤褐色（Hue2.5YR4/4）を呈している。器厚は1.2cm前後で、胎土は泥質で石英等の微細粒を僅かに含む。焼成は良好である。B2出土。

第6図5は推算底径8.6cmの底部片である。底面近くを欠くが丸底になるとみられる。器面調整は外面がナデ調整を施され、内面には条痕が明瞭に残る。器色は外面がにぶい赤褐色（Hue5Yr5/4）、内面は概ね黒褐色（Hue5YR3/1）を呈する。器厚は1.2cm前後で、胎土は泥質で石英等の微細粒を含む。焼成は良好である。B2出土。

第6図6は推算底径8.3cmの底部片である。平底気味になるとみられる。器面調整は外面がナデ仕上げ、内面は雑に調整が施されている。器色は外面がにぶい赤褐色（Hue5YR5/4）、内面がにぶい赤褐色（Hue5YR4/3）を呈する。器厚は1.2cm前後で、胎土は泥質で石英等の微細粒を僅かに含み、焼成は良好である。表採。

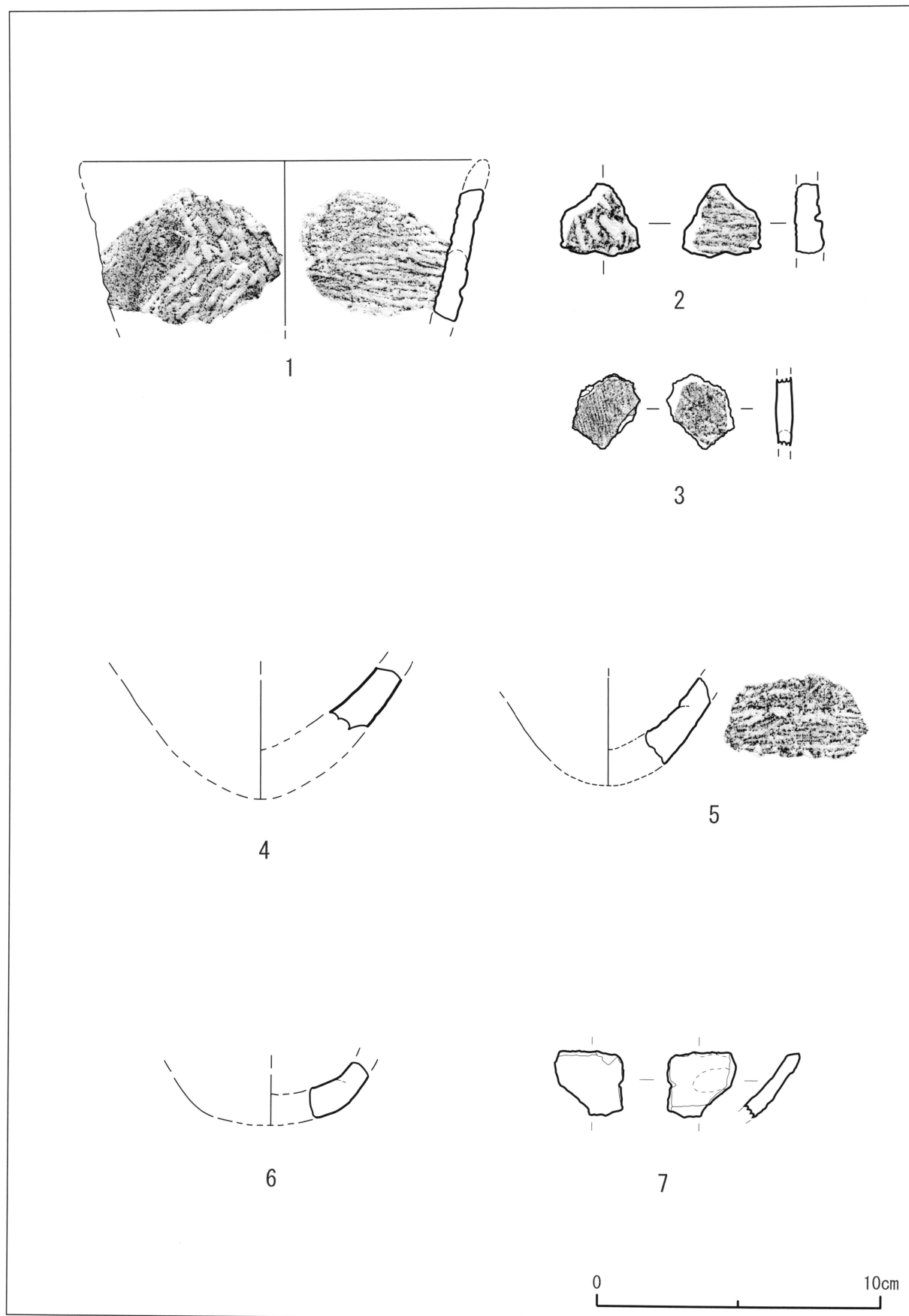
第6図7は碗形土器の口縁部片である。底部から緩やかに膨らみながら外側に開く器形で、口縁を平坦に整形するものである。器面調整は内外とも雑仕上げであるが、内面がより丁寧である。器色は内面が明赤褐色（Hue5YR5/6）、外面はにぶい赤褐色（Hue5YR5/4）を呈する。胎土は泥質で、混和材としてチャート細片等を含む。焼成は良好である。Aグリッド第I層の出土。

2. チャート片（第7図15）

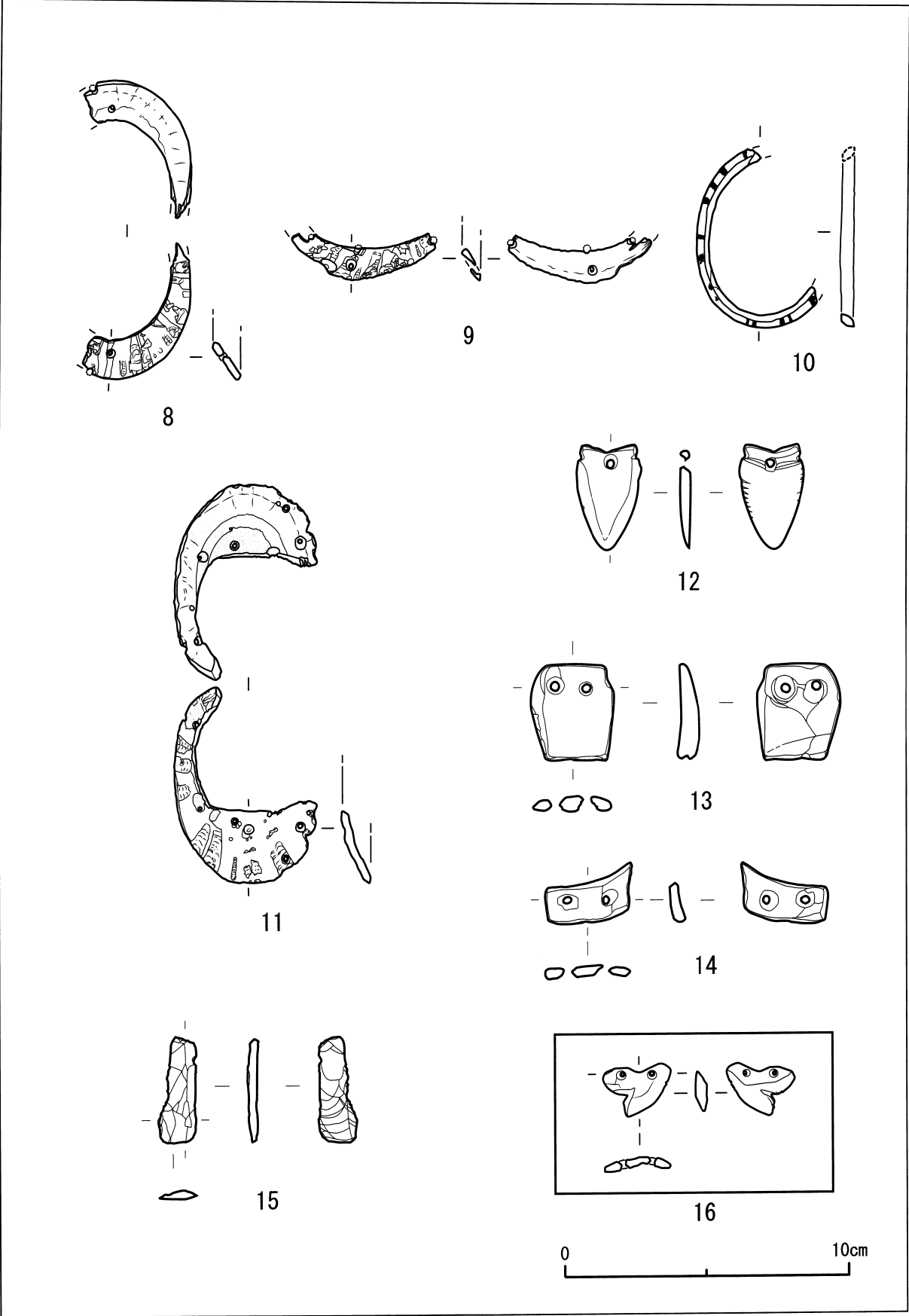
平面観はほぼ方形状を呈し、断面は三角形状を呈する。明瞭な調整痕等は見られない。法量は長さ3.71cm、幅1.33cm、重量1.58gである。Aグリッドベルト第I層出土。取り上げ番号10-0029

3. 貝製品（第7図8～図16）

第7図8はオオツタノハ製有孔貝輪の破損品である。表面の研磨は放射肋部分の除去に止まり橙色の自然を残している。孔唇部は研磨が徹底しており滑らかである。現存する孔は図左側の1か所であ



第6図 遺物実測図1



第7図 遺物実測図2

るが、同端部の破損箇所にも孔の一部がみえる。残存重量は6.9 gである。集骨3に伴う。

第7図9はメンガイ製有孔貝輪の破損品である。表面の研磨は第7図8と同様に肋部分の除去に止まり、自然面をそのまま残している。孔唇部及び外周は研磨のため滑らかである。現存する孔は1か所で、両端及び孔唇部に孔の一部がみえる。残存重量は4.6 gである。集骨3に伴う。

第7図10はサラサバテイ製貝輪の破損品である。全体に亘って軽度の研磨が施されているが、孔唇部は特に丁寧に施されている。残存重量は4.1gである。集骨3に伴う。

第7図11はメンガイ製有孔貝製品の破損資料である。第7図8・9は、殻頂部分の除去範囲が外周近くまで及ぶのに対して、本資料は殻頂近くに止まることから上記2点とはやや異なる形状のものである。研磨は先述の資料同様に自然面を消し去るには至らないが、孔唇部周辺に4か所、外周縁に1か所の孔を有し、左上方の外周縁には刻みを1か所施している。本資料は両端の破損箇所とも研磨が施されており、2次利用された可能性もある。残存重量は16.9 gである。A1 東側出土。

第7図12は、シャコガイ製有孔製品の完形資料である。平面観は基部をV字状に整形し、同中央に1孔を穿孔する。裏面では基部を段状に整形する。左周縁に9本、右周縁には7～9本刻みを施すようであるが、右周縁の刻みは整形の不徹底かあるいは磨滅のためか左周縁ほど明瞭ではない。法量は長さ3.66 cm、幅2.24 cm、孔径0.27 cm、重量4.30 gである。取り上げ番号10-003

第7図13はシャコガイ製有孔製品である。周縁が一部欠損するもののほぼ完形である。全面にわたって研磨が

第1表 出土遺物一覧表

年度	連番	取り上げ番号	遺物名	種別等	出土位置
2007	1	07-001	自然遺物		
	2	07-002	貝輪	オオツタノハ	集骨2
	3	07-003	自然遺物		
	4	07-004		ツノガイ類	集骨2
	5	07-005	効うがい製品	効うがい科 ハナビラダカラガイ	集骨2
	6	07-006	効うがい製品	効うがい科 ハナビラダカラガイ	集骨2
	7	07-007	効うがい製品	効うがい科 ハナビラダカラガイ	集骨2
	8	07-008	自然遺物		
	9	07-009	効うがい製品	効うがい科 ハナビラダカラガイ	集骨2
	10	07-010	効うがい製品	効うがい科 ハナビラダカラガイ	集骨2
	11	07-011	貝珠	ツノガイ類	集骨2
	12	07-012	効うがい製品	効うがい科 ハナビラダカラガイ	集骨2下層
	13	07-013	貝珠	ツノガイ類	集骨2下層
	14	07-014	効うがい製品	効うがい科 キロダカラガイ	集骨2下層
	15	07-015	貝珠	ツノガイ類	集骨2下層
	16	07-016	貝珠	ツノガイ類	集骨2下層
	17	07-017	土器		ST01
	18	07-018	貝輪	ツタノハガイ科 オオベッコウカサガイ	集骨3
	19	07-019	貝輪	ツタノハガイ科 オオベッコウカサガイ	集骨3
	20	07-020	貝輪	オオツタノハ	集骨3
	21	07-021	自然遺物		
	22	07-022	貝輪	ニシキウスガイ科 サラサバテイ	集骨3下層
	23	07-023	貝輪	ニシキウスガイ科 サラサバテイ	集骨3
	24	07-024	サメ歯状貝製品	シャコガイ?	集骨3
	25	07-025	巻貝有孔	タケノコガイ	集骨3
	26	07-026	自然遺物		
	27	07-027	小玉	スシヨウガイ科 マカキガイ	集骨3
	28	07-028	自然遺物		
	29	07-029	貝輪	ウミキガイ科 ムナガイ類	集骨2下層
2008	30	08-001	線刻有孔	大型イモガイ	集骨2
	31	08-002	貝輪	シャコガイ科 シャゴウガイ?	集骨3
	32	08-003	石材		集骨2付近
	33	08-004	自然遺物		集骨3
	34	08-005	シャコガイ製有孔異形板状	シャコガイ科 ヒレシャコガイ?	集骨3
	35	08-006	貝輪	オオツタノハ	集骨3
2009	36	09-001	自然遺物		
	37	09-002	貝輪	ツタノハガイ科オオベッコウカサガイ	集骨3
	38	09-003	貝輪	ツタノハガイ科オオツタノハガイ	集骨3
			貝輪	ウミキガイ科ムナガイ	集骨3
	39	09-005	小玉	スシヨウガイ科マカキガイ	集骨3
	40	09-006	土器	条痕文	B-2Hレンチ
	41	09-007	貝輪	ツタノハガイ科オオツタノハガイ	A-1H東側
	42	09-008	土器	条痕文	Aグリッド 東側
	43	09-009	土器	条痕文	B-2Hレンチ
2010	44	10-001	巻貝有孔	チョウセンサザエ	
	45	10-002	有孔		
	46	10-00	シャコガイ製有孔貝製品		
	47	10-004	巻貝有孔	ノシガイ?	
	48	10-005	自然遺物	ヤコウガイ?	
	49	10-006	臼玉		
	50	10-007	臼玉		
	51	10-008	巻貝有孔	アマオブネ	
	52	10-009	有孔		
	53	10-010	小玉		
	54	10-011	貝輪		
	55	10-012	札状製品		
	56	10-013	小玉		C-1Hレ
	57	10-014	小玉		C-1Hレ
	58	10-015	小玉		
	59	10-016	小玉		
	60	10-017	小玉		
	61	10-018	小玉		
	62	10-019	小玉		
	63	10-020	小玉		
	64	10-021	小玉		
	65	10-022	小玉		
	66	10-023	小玉		
	67	10-024	小玉		
	68	10-025	小玉		
	69	10-026	小玉		
	70	10-027	自然遺物	ヤコウガイ?	Aグリッド ベルトI層
	71	10-028	小玉		Aグリッド ベルトI層
	72	10-029	石材	チャート	Aグリッド ベルトI層
	73	10-030	臼玉		Aグリッド ベルトI層
	74	10-031	タカラガイ製品		Aグリッド ベルトI層
	75	10-032	臼玉		Aグリッド ベルトI層
	76	10-033	臼玉		Aグリッド ベルトI層

施されている。穿孔は両面から施されている。法量は長さ 3.34 cm、幅 2.96 cm、左孔径 0.31 cm、右孔径 0.27 cm、重量 11.1 g である。取り上げ番号 10-002

第 7 図 14 はオオツタノハ製有孔製品である。全面にわたって研磨が施されるが自然面を消し去るには至っていない。横位の 2 孔は両面から穿孔されている。法量は長さ 3.17 cm、幅 1.39 cm、左孔径 0.30 cm、右孔径 0.18 cm、重量 3.25 g である。取り上げ番号 10-009

第 7 図 16 は、前回の報告で「サメ歯有孔製品」としたものであるが、正確には「サメ歯状貝製品」であったので、ここで訂正する。以下に観察事項を一部改めて再度掲載する。

第 7 図 16 は、上部に両側から 2 孔を穿っている。研磨は裏面の 2 孔下に横位方向のものが、下部の屈曲部に両面からの斜位のものが顕著である。法量は長さ 1.71 cm、幅 2.40 cm、孔径 0.2 cm、厚さ 0.04 cm、重量 1.76 g である。

(大城)

第 6 節 埋葬

発掘調査を進めていくうちに、本遺跡は縄文後期の集骨遺構であることがわかってきた。人骨だけではなく、集骨の間やその周辺からは貝製装身具類なども検出されたが、着装状態で見つかったものはない。どうみても遺骨を片付けたようであるが、では一次埋葬場所は一体どこなのであろうか。このような疑問を抱きながら、洞穴中央部での人骨や遺物の検出状態と「集骨 1」、「集骨 2」、「集骨 3」の状況を考えてみて、以下のような推測をおこなってみた。

先に結論を述べると、一次埋葬場所はこの岩陰中央部であった、ということである。調査は、まずこの中央部にグリッドを設け、トレンチを開けながら、人骨の集中場所と人骨の出土範囲を把握することから開始した。表土とその下 10cm ～ 30cm の間から骨片や遺物が検出され、この層の下層にはもはや人骨や遺物は存在しない。当初、この散乱状態で検出される人骨片や遺物は、遺骨収集者によって遺構が掘削・攪乱された際に散乱したものだと考えた。しかし、この約 30cm の層の散乱範囲は洞穴中央部から南側半分の広範囲にわたっており、後世に引き起こされた遺構の攪乱によって生じた現象ではないことがわかった。では、この状態は何を意味するのであろうか。この散乱状態は、この場所が遺体の一次埋葬地であって、遺骨の処理がここでおこなわれたことを物語っている。

遺体の処理を復元してみよう。ヒトが亡くなると、遺体をこの洞穴の中央部に安置し、軟部組織（筋肉など）が腐り、骨になるのを待つ。その間、獣や鳥などによって、肉は食われたり啄ばまれたりしたであろう。また肉と一緒に持ち去られる骨もあったであろう。やがて死者が骨だけになった時点で、遺骨の一部を岩陰の南に存在した大きな裂け目に納めて土を被せた。すべての骨を納めたのではない。発掘調査によってこの岩の裂け目から検出された骨は、頭蓋のほかには大腿骨、脛骨、上腕骨などの大きな骨ばかりであって、肋骨や椎骨、手の骨（手根骨、中手骨、指骨）や足の骨（足根骨、中足骨、指骨）などはほとんど存在しない。1 体分まるまる納める必要はなかったようである。残った骨は最初に遺体が安置された場所に放置された。遺体が埋葬されなければ骨は残ることはない。動物でも同じである。埋葬されないで放置されれば、やがて骨も含めて遺体は消滅する。埋葬するという行為、すなわち遺体を穴の中に埋め、土を被せるなどして外気から遮断するので、骨は残るのである。

埋納されないでその場に残された人骨は、葬送儀礼が済んだので、もう用はない。そのまま放置さ

れたか、あるいは故意に踏みつぶされたかもしれない。次の遺体はこの散乱骨の上に安置され、また同じような遺体処理、葬送儀礼がおこなわれる。このように長い年月の間に人骨は踏みしだかれ、散乱していった。岩陰中央部には多少の窪みがあって、その窪みには他の場所よりも人骨が集まる。この場所が「集骨1」や「集骨2」であろう。一次埋葬周辺（最初に遺体が安置された場所）は、骨が散らばってちょうど窯跡の「ものはら」状態になった。

「集骨3」は人骨の層が厚く、もっとも厚いところで約80cmもあったが、1体分の人骨がまるまる納まっているわけではない。なぜ、全身骨を埋納しなかったのでしょうか。おそらく、「ヒトとしての形」を崩し、一部の骨を隠してしまうことに意味があったのではないだろうか。肉を腐らせても骨は関節しており、まだ「ヒトのかたち」を保ったままである。この状態は、「この世」と「あの世」の間で、死者はまだ「あの世」に行っていない。死者を「あの世」に送るためには「ヒトのかたち」を崩し、この世から「存在」を消し去る必要があった。人骨の一部を抜き取り別の場所へ埋納し、土を被せ、みえなくし、残った骨を攪乱することは、人体としての配置を乱し、「この世」と「あの世」との間でさまよっている魂を確実に「あの世」へ送ってやる一連の行為ではなかったか、と推測してみた。このように推測すれば、岩陰中央部など広範囲にわたって骨片や装身具類が散乱し、集骨された骨は頭蓋や大腿骨など長骨の一部しかないことをうまく説明することが可能である。

残存していた人骨のうち、もっとも量が多かったのは下顎骨である。下顎骨は目に付きやすい骨であり、顎をはずしてしまうことによって、「しゃべる」ことを妨げ、「食べる」ことを不可能にした。手足の関節を外してしまう前に、摩文仁縄文人がまずおこなったことは下顎骨を取り上げ、岩陰奥へ隠したのであろう。そのために下顎骨が最も多く残ったものと思われる。

このように、葬送は2段階の行程でおこなわれた。第1ステージは、岩陰中央部で遺体を腐らせる。第2ステージは、骨の一部を岩陰奥の裂け目へ入れ、土を被せて埋納し、その他の人骨は攪乱し放置するか、踏みしだく。これで死者の葬送行為は終了した。奇しくも岩陰内でおこなわれるこの一連の葬送行為は後世の甕甲墓のなかでおこなわれるそれとほとんど同じである。

沖縄県では岩陰から人骨が出土することが見受けられるが、一次葬の状態で見つかることはほとんどない。摩文仁ハンタ原と同じ葬送行為が、南西諸島のすべての地域でおこなわれたかどうかはわからない。ただ、今後このような視点で、人骨の出土状況を検討し、葬送行為や葬送儀礼を復元することによって、この仮説を検証していく必要がある。

（松下孝幸）

第7節 人骨

1. 人骨の出土状況

本岩陰の中央部では広範囲にわたって表層から人骨片や貝製品などを採集することができたが、当初はこれらは遺骨収集によって遺構が攪乱された際に、周辺に飛散した結果であろうと推測していた。しかし、発掘調査によって、前庭を含めた岩陰全体の表層は骨片や遺物を含む薄い包含層であることがわかった。約2000年もの間この遺物包含層の上に土砂などが堆積しなかったことは驚きであり、また、戦後本遺跡の周辺で遺骨収集がおこなわれたにもかかわらず、今回の発見まで遺構や人骨、遺

物などが保存されていたことは奇跡に近い。

岩陰の南端には岩に囲まれた箇所があり、この岩の間から人骨が検出された。この部分も表土にはほとんど覆われておらず、頭蓋の一部がすでに露出していた。人骨の検出をおこなったところ下顎骨を確認した。上肢骨と右側の下肢骨、肋骨も検出したが、これらは埋葬状態を保っていない。また、尺骨が石の下から検出された。実測終了後、人骨を取り上げる際に、埋葬された状態を保った左側肋骨と鎖骨を検出した。すなわち、頭蓋と左側肋骨および鎖骨は埋葬状態を保っていたので、本来ここには一次葬状態の人骨が残存していたと考えられるが、後世の攪乱によって、上肢骨や下肢骨が動かされてしまったものと思われる。人骨の周辺にあった石は被葬者を納めた石棺もしくは遺体を取り囲んだ石囲である可能性が高い。従って、本施設を遺構とみなし「ST-1」という番号を付した。なお、このST-1人骨は幼児骨である。

「ST-1」の下層は人骨の堆積層である。この箇所には「集骨3」という番号を付けた。人骨が厚く堆積しているが、関節している骨は皆無で、人骨は集積状態である。四肢骨については規則性はみられないが、頭蓋は岩陰の奥の方から検出される傾向にある。この傾向は最下層も同様であった岩陰の奥では石灰岩に接しており、溶解した石灰質成分が頭蓋を取り囲んでおり、取り上げがかなり困難であった。

「集骨3」の北側で検出された「集骨1」と「集骨2」は規模が小さく、層も薄く、この中の人骨も関節状態を保ったものは存在しなかった。

多種多様な貝製品が「集骨1」、「集骨2」、「集骨3」とその周辺から多く検出されたが、着装状態で出土したものはなかった。ゴホウラ製腕輪が、遺骨収集時と遺骨収集坑（ピットX）の排土からそれぞれ1個ずつ出土したが、おそらくこの2個も着装状態ではなかったと思われる。

（松下孝幸）

2. 人骨の年代

最上層から出土した幼児骨は埋葬状態を一部保っており、その下層の集骨とは出土状況が違っていたが、副葬品を伴っておらず、時期を特定することができなかった。また、集骨の時期は報告書（1）の第Ⅲ章で詳述されているように、出土遺物から「縄文時代後期を中心とする時期」に比定されているが、集骨の中層・下層から出土した人骨からそれぞれAMS年代（ ^{14}C ）を推測してみた。

最上層人骨	ST-1	1回目	955 ± 30	
		2回目	960 ± 40	
中層人骨	資料1		3820 ± 30	
下層人骨	資料2		3720 ± 40	
	資料3		3610 ± 40	資料4 3940 ± 40

ST-1についてはクロスチェックをおこなったが、2回のデータはほぼ一致し、この人骨は平安時代相当期の人骨であった。集骨3の時期は、遺物の年代観（縄文後期）と一致している。また、人骨の保存状態は集骨の上層・中層・下層で大差ないことから、比較的短期間に集骨されたと考えられる。

（松下孝幸）

第Ⅲ章 まとめ

本報告書では、2009 年と 2010 年の 2 か年の調査で出土した特徴的な遺物について記したが、ここで再度これら遺物の概要と過去 4 か年に亘る調査のまとめとしたい。

2009・2010 両年に亘る調査では、2007・2008 年の調査に比べて新たな遺物の出土は少量に止まったが、新資料を追加することができた。第 6 図に掲げた条痕文土器の胴部資料が得られている。これは B-2 グリッドにおいて、底部資料及び獣骨の下顎骨とまとまって出土したものである。器形は深鉢形を呈し、小破片のため不明な点であるが表面には単篋によって綾杉状の文様を施している。内面には器面調整時の条痕が明瞭に残っている。底部は丸底かあるいは尖底状に成形されるもので、器面調整は胴部片と同様である。貝製品については、多くは貝輪であるが、なかには第 7 図 11～13 に掲げたような垂飾品も得られている。

過去 4 か年に亘る調査で骨貝製品 20 種が得られている。その殆どは A グリッドの各集骨に伴って出土したもので、各集骨間で骨貝製品の出土傾向は若干異なるものの、遺物にあまり時間差はないようである。短期間の内に各集骨の集積はなされたものと考えられる。各集骨の時期については、埋葬跡ということもあって指標となるべき土器の出土が僅少であり判然としないが、前回の報告した内容と齟齬を生じる遺物の出土がないこと及び ^{14}C 年代測定結果等から、現段階では、摩文仁ハンタ原遺跡の集骨は縄文時代後期に比定されるものと考えられる。

(大城)

今回報告した人骨は、この 4 ヶ年の調査で出土した人骨のうち整理作業がほぼ完了した頭蓋、上腕骨、大腿骨、脛骨である。しかし、量が多いこと、付着している石灰の除去に時間がかかっていることもあって、整理作業や復元はまだ完了していない。人骨形質については多様性がみられる骨もあり、さらに詳細な研究が必要である。研究の進展状況に応じてその研究成果を順次公表していくつもりである。また、本遺跡の発掘調査を通じて、岩陰全体での人骨の検出状態から、一次葬がおこなわれた場所はこの岩陰中央部であったこと、および集骨状態にいたるまでの過程を推測してみた。

残存していた人骨は下顎骨が最も多く、下顎骨からの最少個体数は 85 体である。これほど多くの縄文後期人骨が出土した遺跡は沖縄本島南部には存在しないが、本島全体をみわたしてみてもその出土量は沖縄県屈指の量である。しかし、集骨のため、顔面の保存状態はかなり悪い。頭蓋は脳頭蓋も顔面頭蓋も小さく、頭型は男女とも短頭型を示すが、その程度は強いものではなく、また顔面は低・広顔を示すが、著しい低・広顔でもない。四肢骨は、大腿骨がかなり細いが、その割には上腕骨がやや太い。大腿骨はやや長く、柱状性がみられる。上腕骨と大腿骨上部は扁平であるが、脛骨には扁平性は認められない。また、男性の推定身長は西北九州人なみで、著しい低身長ではないが、女性はかなり身長が低い。なお、風習的抜歯は上下両顎ともに認められなかった。

繰り返すが、本遺跡からは多数の遺物と人骨が出土していることから、葬送儀礼を含め沖縄本島での縄文後期人の生活を復元するための情報量は豊富である。今後、考古学と人類学が共同で遺物と遺跡の検討をおこない、琉球列島における人類史研究と日本人の起源研究に寄与していきたい。

(松下孝幸)



第1図版1 現地説明会風景



第1図版2 09年調査開始前



第1図版3 人骨検出風景



第1図版4 ホウ貝検出状況



第2図版1 貝製品検出状況1



第2図版2 貝製品検出状況2



第2図版3 人骨出土状況1



第2図版4 人骨出土状況2



第3図版1 顔面頭蓋の検出状況



第3図版3 土器の検出状況2



第3図版2 土器の検出状況1



第3図版4 人骨検出状況3(下層)



第4図版1 貝製品検出状況3



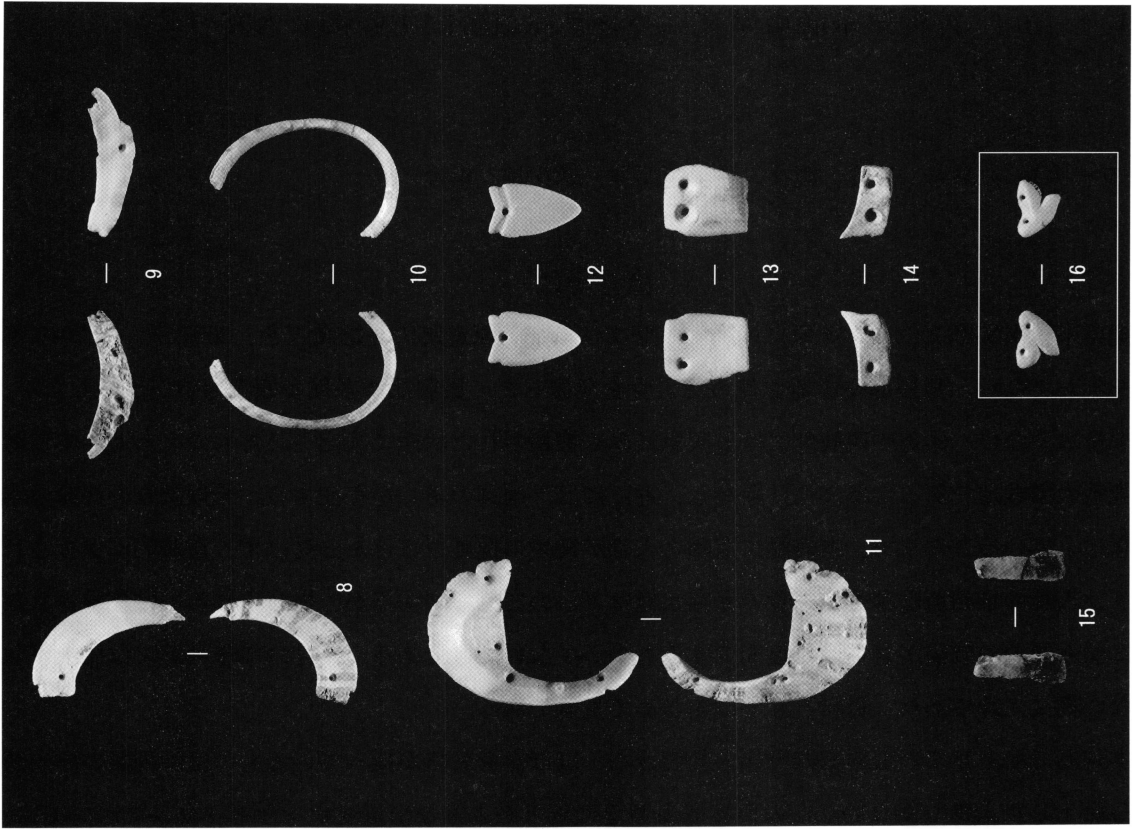
第4図版3 貝製品検出状況5



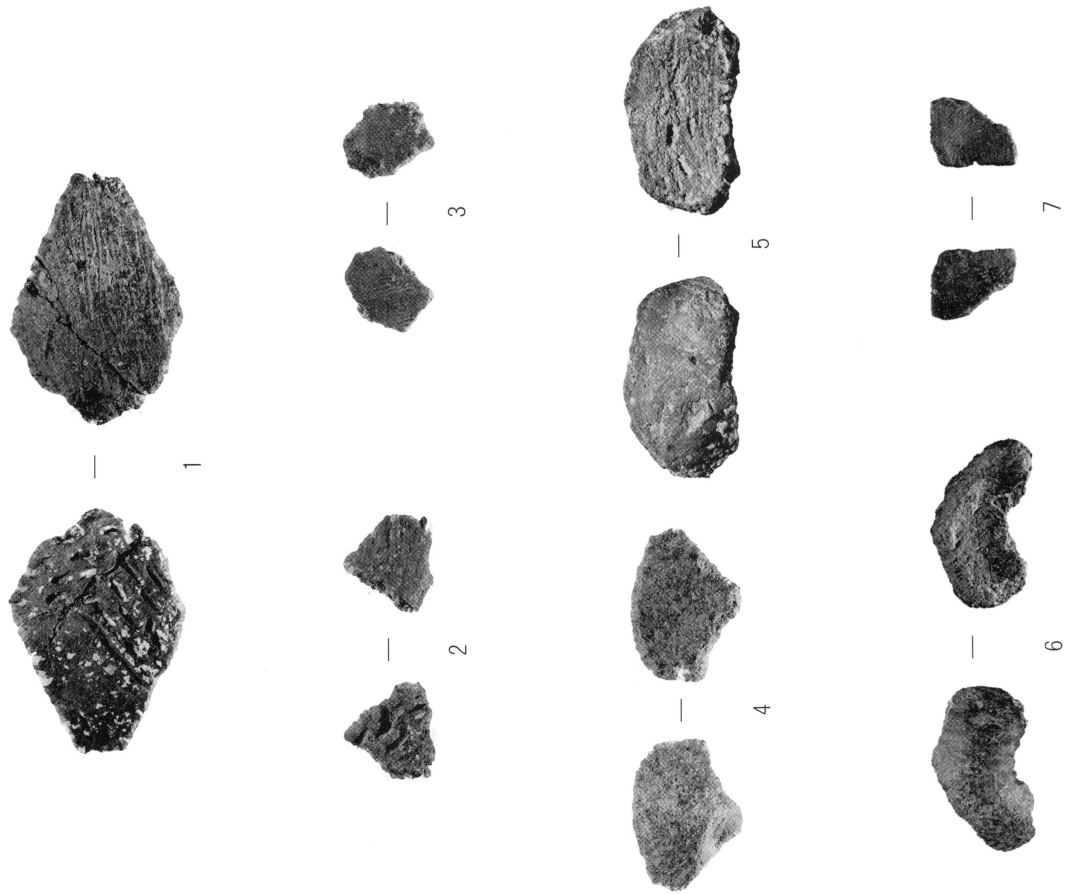
第4図版2 貝製品検出状況4



第4図版4 調査終了 埋め戻し後



第6図版 出土遺物 2



第5図版 出土遺物 1

松下真実^{*}・松下孝幸^{**}

【キーワード】：沖縄県、岩陰、縄文人骨、短頭型、低身長、集骨

はじめに

沖縄県糸満市字摩文仁ハンタ原に所在する摩文仁ハンタ原遺跡の発掘調査を、2007年から2010年の4ヶ年おこない、貝製品や土器を伴った人骨を発掘した。貝製品は多種多様なものが出土したが、土器の量は少ない。頭蓋や四肢骨には石灰岩に厚く被覆された状態で検出されたものもある。本遺跡は沖縄戦の激戦地であった摩文仁に存在し、近くには「南冥の塔」が存在する。発掘調査の詳細は本編で詳述しているとおりで、本岩陰に遺物と人骨が後世の攪乱をほとんど受けず、奇跡的に保存されており、人骨の堆積層は厚く、人骨の保存状態はきわめて良好であるが、惜しまれるのは集骨されたために顔面頭蓋の破損が著しく、復元できるものが少ないことである。人骨は琉球列島では出土例数が少ない縄文人骨であり、資料としてはきわめて貴重である。

日本列島で出土している旧石器時代人骨のうち、ほぼ全身骨格が揃っているものは沖縄県の港川遺跡から出土した人骨しかない。この旧石器人がその後どのような形質変化をたどったかについては、沖縄で縄文時代の古い時期の人骨が出土しないために明らかではない。縄文晩期に属する人骨は宜野湾市真志喜安座間原遺跡、北谷町のクマヤー洞穴、伊是名村具志川島遺跡群、ガルマンドウ原洞穴などから出土しており、次第に例数も増えてきたが、縄文後期以前に属する人骨の出土は宜野湾市テラガマなどごく一部から、しかも断片的な人骨しか検出されていない。

人骨は集骨状態で、破碎しているものが多かったが、中には顔面を復元することができたものや最大長を計測することが可能な四肢骨も存在した。出土人骨の研究はまだ継続しているが、沖縄県での縄文人骨の標識になり得る人骨と考えられるので、今回は取り急ぎ、2007年に出土した人骨の所見について記載したので、今回は2008年、2009年、2010年に出土した人骨を中心にして、現在までの研究結果を報告しておきたい。

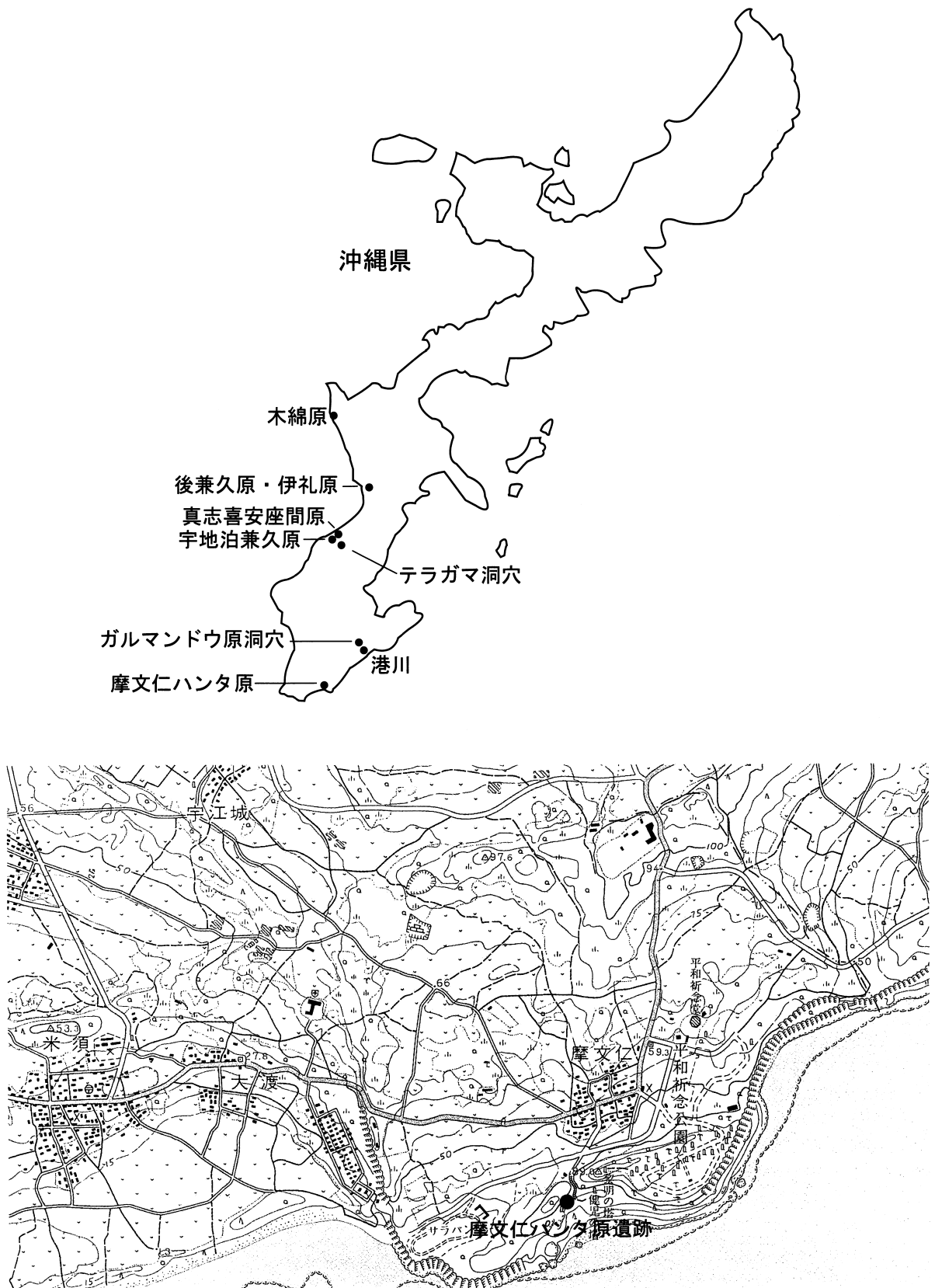
資 料

本岩陰で南半分の地区では表層から人骨が検出されるが、「集骨1」「集骨2」「集骨3」を除けばその包含層の厚さは10cm～30cm程度で、人骨の状態はほとんどが骨片である。「集骨1」と「集骨2」では人骨の量がやや多く、少し大きい骨片が検出された。もっとも人骨の堆積層が厚いのが「集骨3」で、量も多く、保存状態も良好である。

一部埋葬状態を保って出土した人骨（ST-1）（幼児、平安時代人骨）については、前回報告したので、今回は縄文人骨について報告をおこなうが、量が多く、しかも破碎されているものが大部分なので、接合するのに時間を要している。今回は大方の整理が完了した頭蓋、上腕骨、大腿骨、脛骨について記載しておきたい。第1表は「集骨3」から出土した頭蓋と下顎骨の一覧表である。年齢区分に関しては第3表を参照されたい。

* Masami MATSUSHITA、** Takayuki MATSUSHITA

The Doigahama Site Anthropological Museum [土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム]



第1図 遺跡の位置 (1/25,000)
(Fig.1 Location of the Mabunihantabaru site, Itoman City, Okinawa Prefecture)

なお、この人骨群は人骨に伴って出土した土器など遺物の考古学的所見と測定した放射性炭素年代（AMS 法）から、縄文時代後期に属する人骨と推測されている。

計測方法は、Martin-Saller(1957)によったが、脛骨の横径はオリビエの方法で計測し、鼻根部については鈴木（1963）と松下ら（1983）の方法で計測した。

第2表 最少個体数 (Table 2. Minimum number)

	成人			幼小児			合計
	男性	女性	不明	幼児	小児	不明	
頭蓋	26	17	24	0	0	3	70
下顎骨	32	31	7	6	9	0	85

第3表 年齢区分 (Table 3. Division of age)

年齢区分	年	齢
未成人	乳児	1歳未満
	幼児	1歳～5歳（第一大臼歯萌出直前まで）
	小児	6歳～15歳（第一大臼歯萌出から第二大臼歯歯根完成まで）
	成年	16歳～20歳（蝶後頭軟骨結合癒合まで）
成人	壮年	21歳～39歳（40歳未満）
	熟年	40歳～59歳（60歳未満）
	老年	60歳以上

注）成年という用語については土井ヶ浜遺跡第14次調査報告書(1996)を参照されたい。

出土した人骨は関節で連結しているものは存在しない。人骨の各パーツが散乱状態で検出されたので、出土した人骨の体数を推測するために各骨種ごとにその数を調査しているが、今回は整理がほぼ終了した頭蓋と下顎骨についてその数を検討した。

1. 頭蓋

復元がある程度可能で、頭頂骨と前頭骨もしくは後頭骨が各縫合によって連結された状態を1体とした。その結果、成人骨と推定されるものが67体分、未成人骨が3体分、合計70体分である。

2. 下顎骨

下顎骨はオトガイが残存しているものを1体とカウントした。その結果、成人骨70体分、未成人骨15体分、合計85体分となる。

3. 出土した体数について

第2表に頭蓋と下顎骨から推測した最少個体数を表示した。頭蓋が70体分、下顎骨は85体分出土しており、もっとも数が多いのは下顎骨の85体分である。従って、今回の発掘調査によって出土した人骨の体数は少なくとも85体分である。しかし、人骨は85体分のすべての骨が残存しているわけではない。人体を構成する骨の一部のみがこの岩陰の窪みに埋納されていたに過ぎない。

所 見

1. 頭蓋

(1) 脳頭蓋

第 1 表 人 骨 一 覽 表 (Table 1. Liste of skeletons)

人骨番号	性別	年齢	人骨番号	性別	年齢	人骨番号	性別	年齢
SK-01	男性	熟年	10SK-04	男性	壮年	08MA-16	男性	不明
SK-02	男性	熟年	10SK-05	不明	熟年	08MA-17	女性	不明
SK-03	男性	熟年	10SK-06	不明	不明	08MA-18	女性	不明
SK-04	男性	壮年	10SK-07	不明	壮年	08MA-19	女性	不明
SK-05	男性	壮年	10SK-08	不明	壮年	08MA-20	女性	不明
SK-06	男性	壮年	10SK-09	女性	壮年	08MA-21	女性	不明
SK-07	女性	壮年	10SK-10	不明	壮年	08MA-22	女性	不明
SK-08	女性	壮年	10SK-11	不明	壮年	08MA-23	女性	不明
SK-09	男性	不明	10SK-12	不明	壮年	08MA-24	女性	不明
07SK-01	男性	壮年	10SK-13	不明	不明	08MA-25	不明	不明
07SK-02	不明	壮年	MA-01	男性	不明	08MA-26	男性	不明
07SK-03	不明	壮年	MA-02	男性	不明	08MAi-01	—	幼児 3歳
07SKi-01	—	未成人	MA-03	男性	不明	08MAi-02	—	幼児 3~4歳
07SKi-02	—	未成人	MA-04	女性	不明	09MA-01	男性	不明
08SK-01	男性	熟年	MA-05	男性	不明	09MA-02	男性	不明
08SK-02	男性	熟年	MA-06	男性	不明	09MA-03	男性	不明
08SK-03	男性	壮年	MA-07	男性	不明	09MA-04	男性	不明
08SK-04	男性	壮年	MA-08	女性	不明	09MA-05	男性	不明
08SK-05	男性	熟年	MA-09	男性	不明	09MA-06	女性	不明
08SK-06	女性	壮年	MA-10	男性	不明	09MA-07	女性	不明
08SK-07	女性	壮年	MA-11	男性	不明	09MA-08	男性	不明
08SK-08	女性	壮年	MA-12	男性	不明	09MA-09	女性	不明
08SK-09	男性	壮年	MA-13	女性	不明	09MA-10	女性	不明
08SK-10	女性	壮年	MA-14	—	幼児 5歳前後	09MA-11	男性	不明
08SK-11	不明	壮年	MA-15	—	小児 6歳前後	09MAi-01	—	小児
08SK-12	不明	壮年	07MA-01	男性	不明	09MAi-02	—	小児 11歳
08SK-13	不明	壮年	07MA-02	男性	不明	09MAi-03	—	小児 1.5歳
08SK-14	不明	壮年	07MA-03	男性	不明	09MAi-04	—	小児 11歳
08SK-15	不明	壮年	07MA-04	男性	不明	09MAi-05	—	小児 6歳
08SK-16	不明	壮年	07MA-05	男性	不明	10MA-01	男性	不明
08SK-17	不明	熟年	07MA-06	女性	不明	10MA-02	男性	不明
08SK-18	不明	壮年	07MA-07	男性	不明	10MA-03	女性	不明
08SK-19	女性	壮年	07MA-08	男性	不明	10MA-04	女性	不明
08SK-20	不明	壮年	07MA-09	男性	不明	10MA-05	男性	不明
09SK-01	女性	壮年	07MA-10	男性	不明	10MA-06	男性	不明
09SK-02	女性	壮年	07MA-11	不明	不明	10MA-07	女性	不明
09SK-03	女性	壮年	07MA-12	男性	不明	10MA-08	男性	不明
09SK-04	女性	壮年	07MA-13	男性	不明	10MA-09	女性	不明
09SK-05	男性	壮年	07MA-14	女性	不明	10MA-10	女性	不明
09SK-06	男性	壮年	07MA-15	女性	不明	10MAi-01	—	幼児 2~3歳
09SK-07	男性	熟年	07MA-16	女性	不明	10MAi-02	—	幼児 1歳
09SK-08	男性	壮年	07MAi-01	—	小児 12~15歳	SK: 頭蓋、MA: 下顎骨		
09SK-09	女性	壮年	07MAi-02	—	小児 12歳			
09SK-10	男性	壮年	07MAi-03	—	小児 10歳			
09SK-11	女性	壮年	07MAi-04	—	小児 6歳			
09SK-12	女性	壮年	08MA-01	男性	不明			
09SK-13	男性	熟年	08MA-02	男性	不明			
09SK-14	不明	壮年	08MA-03	男性	不明			
09SK-15	不明	壮年	08MA-04	女性	不明			
09SK-16	女性	壮年	08MA-05	男性	不明			
09SK-17	不明	壮年	08MA-06	男性	不明			
09SK-18	男性	壮年	08MA-07	男性	不明			
09SK-19	不明	不明	08MA-08	女性	不明			
09SK-20	男性	壮年	08MA-09	男性	不明			
09SK-21	男性	壮年	08MA-10	男性	不明			
09SK-22	不明	熟年	08MA-11	女性	不明			
09SKi-01	—	未成人	08MA-12	女性	不明			
10SK-01	男性	壮年	08MA-13	女性	不明			
10SK-02	女性	壮年	08MA-14	女性	不明			
10SK-03	男性	壮年	08MA-15	男性	不明			

男性の脳頭蓋の計測値は、頭蓋最大長が 175.27 mm (11 例)、頭蓋最大幅は 140.67 mm (6 例)、バジオン・ブレグマ高は 137.00 mm (2 例) である。頭蓋長幅示数は 80.87 (6 例)、頭蓋長高示数は 78.72 (2 例)、頭蓋幅高示数は 97.84 (2 例) となり、頭型は brachy-, hypsi-, metriokran (短・高・中頭型) に属している。また、頭蓋水平周は 498.75 mm (4 例) で、横弧長は [320.36] mm (11 例)、正中矢状弧長は 367.67 mm (3 例) である。

女性の脳頭蓋の計測値は、頭蓋最大長が 173.00 mm (6 例) で、頭蓋最大幅は 141.00 mm (3 例)、バジオン・ブレグマ高は 132 mm (1 例) である。頭蓋長幅示数は 82.61 (3 例) で、頭蓋長高示数が 79.04 (1 例)、頭蓋幅高示数は 96.35 (1 例) となり、頭型は brachy-, hypsi-, metriokran (短、高、中頭型) に属している。頭蓋水平周は 495.00 mm (2 例) で、横弧長は 312.50 mm (2 例)、正中矢状弧長は 349 mm (1 例) である。

(2) 顔面頭蓋

男性の顔面頭蓋の計測値は、顔長が 106 mm (1 例) で、頬骨弓幅は [138] mm (1 例)、中顔幅は 101.33 mm (3 例)、上顔高は 63.33 mm (3 例) で、上顔示数は [46.38] (K) (1 例)、[63.21] (V) (3 例) となり、顔面には低・広顔傾向が認められる。

眼窩幅は 44.00 mm (3 例) (右)、43.50 mm (2 例) (左)、眼窩高は 32.00 mm (2 例) (右)、33 mm (1 例) (左) で、眼窩示数は 74.42 (2 例) (右)、78.57 (1 例) (左) となり、右側は chamaekonch (低眼窩)、左側は mesokonch (中眼窩) に属している。

鼻幅は 25.67 mm (3 例)、鼻高は 51.75 mm (4 例) で、鼻示数は 50.20 (3 例) となり、mesorrhin (中鼻) に属している。

女性の顔面頭蓋の計測値は、顔長が 96 mm (1 例) で、頬骨弓幅は [121.00] mm (2 例)、中顔幅は [95.00] mm (4 例)、上顔高は (59.00) mm (4 例) で、上顔示数は [47.51] (2 例) (K)、[62.33] (4 例) (V) となり顔面には男性同様に低・広顔傾向が認められる。

眼窩幅は 41.50 mm (2 例) (右)、40.33 mm (3 例) (左)、眼窩高は 30.50 mm (2 例) (右)、30.33 mm (2 例) (左) で、眼窩示数は 73.49 (2 例) (右)、77.21 (2 例) (左) となり、男性同様に右側は chamaekonch (低眼窩)、左側は mesokonch (中眼窩) に属している。

鼻幅は 23.67 mm (3 例)、鼻高は 45.00 mm (4 例) で、鼻示数は 53.43 (3 例) となり、chamaerrhin (低鼻) に属している。

2. 抜歯

①上顎歯

上顎骨は、成人骨が 15 体分、未成人骨は 3 体分の観察が可能であった。観察をおこなったところ、上顎骨には風習的抜歯は認められない。

②下顎歯

下顎骨は成人骨が 57 体分、未成人骨は 13 体分の観察が可能であった。そのうち 4 例はすべての歯槽が閉鎖している。観察ができた下顎骨 70 例には風習的抜歯は認められない。

3. 外耳道骨腫

側頭骨は、成人骨の右側が 25 体分、左側は 35 体分、未成人では左側が 3 体分残存していた。そのうち外耳道の観察ができたのは、成人骨の右側が 10 例、左側は 20 例、未成人骨の右側が 1 例、左側は 3 例であるが、骨腫はすべてに認められない。

4. 四肢骨

(1) 上肢骨

①上腕骨

男性の計測値は、最大長が 298.00 mm (右)(2 例)、297.00 mm (左)(2 例)、骨体最小周は 60.57 mm (右)(14 例)、61.21 mm (左)(14 例)、中央周は 65.47 mm (右)(17 例)、65.85 mm (左)(20 例)、長厚示数は 20.12 (右)(2 例)、21.38 (左)(2 例)である。また、中央最大径は 23.18 mm (右)(17 例)、23.43 mm (左)(21 例)、中央最小径は 15.94 mm (右)(17 例)、16.29 mm (左)(21 例)で、骨体断面示数は 68.76 (右)(17 例)、69.73 (左)(21 例)となり、骨体には強い扁平性が認められる。

女性の計測値は、最大長が 254 mm (右)(1 例)、骨体最小周は 53.67 mm (右)(6 例)、50.82 mm (左)(11 例)、中央周は 56.38 mm (右)(8 例)、54.82 mm (左)(11 例)、長厚示数は 22.44 (右)(1 例)である。また、中央最大径は 19.89 mm (右)(9 例)、19.09 mm (左)(11 例)、中央最小径は 13.89 mm (右)(9 例)、13.64 mm (左)(11 例)で、骨体断面示数は 69.98 (右)(9 例)、71.82 (左)(11 例)となり、男性と同様に骨体には強い扁平性が認められる。

(2) 下肢骨

①大腿骨

男性の計測値は、最大長が 412.33 mm (右)(3 例)、425 mm (左)(1 例)、骨体中央周は 76.48 mm (右)(21 例)、77.61 mm (左)(18 例)で、骨体は細い。骨体中央矢状径は 24.71 mm (右)(21 例)、25.00 mm (左)(18 例)、中央横径は 23.57 mm (右)(21 例)、23.72 mm (左)(18 例)で、骨体中央断面示数は 105.14 (右)(21 例)、105.56 (左)(18 例)となり骨体両側面の後方への発達は良好である。骨体上横径は 27.41 mm (右)(17 例)、27.74 mm (左)(19 例)、骨体上矢状径は 21.00 mm (右)(17 例)、21.47 mm (左)(19 例)、上骨体断面示数は 76.67 (右)(17 例)、77.32 (左)(15 例)で、骨体上部は扁平である。

女性の計測値は、最大長が 363.50 mm (右)(2 例)、骨体中央周は 68.38 mm (右)(16 例)、68.65 mm (左)(17 例)で、骨体は細い。骨体中央矢状径は 22.06 mm (右)(16 例)、21.94 mm (左)(17 例)、中央横径は 21.25 mm (右)(16 例)、21.32 mm (左)(19 例)で、骨体中央断面示数は 103.87 (右)(16 例)、103.48 (左)(17 例)となり骨体両側面の後方への発達は良好である。骨体上横径は 25.29 mm (右)(14 例)、24.11 mm (左)(18 例)、骨体上矢状径は 18.79 mm (右)(14 例)、19.22 mm (左)(18 例)、上骨体断面示数は 74.46 (右)(14 例)、77.08 (左)(17 例)で、骨体上部は扁平である。

②脛骨

男性の計測値は、脛骨最大長が 339.67 mm (右)(3 例)、331.50 mm (左)(2 例)、最小周は 68.73 mm (右)(22 例)、67.43 mm (左)(28 例)、骨体周は 73.59 mm (右)(32 例)、73.73 mm (左)(30 例)、

長厚示数は 21.03(右)(2 例)、21.03(左)(2 例)である。中央最大径は 26.53 mm(右)(32 例)、26.45 mm(左)(30 例)、中央横径は 19.44 mm(右)(32 例)、19.31 mm(左)(32 例)、中央断面示数は 73.54(右)(32 例)、73.26(左)(32 例)で、骨体には扁平性は認められない。

女性の計測値は、最小周が 60.88 mm(右)(16 例)、61.27 mm(左)(15 例)、骨体周は 64.74 mm(右)(19 例)、64.85 mm(左)(20 例)である。中央最大径は 22.68 mm(右)(19 例)、22.50 mm(左)(20 例)、中央横径は 17.79 mm(右)(19 例)、17.60 mm(左)(20 例)、中央断面示数は 78.60(右)(19 例)、78.54(左)(20 例)で、骨体には扁平性はまったく認められない。

5. 推定身長値

男性の推定身長は上腕骨、大腿骨および脛骨からそれぞれ 4 例の推定値を算出することができた。上腕骨からは 4 例の平均値は 156.74 cm(pearson 式)で、大腿骨 4 例の平均値は 159.42 cm(pearson 式)で、あるが、最小値は 156.32 cmで、次いで小さいのが 158.20 cmで、最大値は 161.96 cmである。また脛骨からの 4 例の平均値は 158.20 cm(pearson 式)で、男性の推定身長はそれほど低くはない。

一方女性は、上腕骨から 1 例、大腿骨から 2 例の推定値を算出することができた。上腕骨からの推定値は 141.43 cmで、かなり低い。大腿骨からは、141.70 cmと 145.39 cmの値が得られ、2 例の平均値は 143.54 cmとなり、大腿骨からの推定値もかなりの低身長値である。

考 察

男性の頭蓋は、07 年出土の 3 体の計測値を含めた平均値で考察をおこないたい。

1. 頭蓋

(1) 脳頭蓋

2007 年に出土した中頭型を示す SK01 を除いて、計測ができたハンタ原の頭蓋長幅示数の示数値は、男女とも 80 を超えており、頭型はすべて短頭型を示している。また、計測はできなかったが観察をおこなったところ、短頭型に属するものが 31 体、中頭型に属すると思われるものが 2 体、長頭型に属すると思われるものが 1 体、後頭部が断崖絶壁型の過短頭型を示すものが 6 体確認できた。

第 4 表は男性の脳頭蓋の比較表である。まず、沖縄県内での比較をおこないたい。沖縄県の縄文人の頭型は、短頭性が弱い港川、具志川島、それよりやや強いクマヤ洞穴、真志喜安座間原、著しく短頭性が強い伊礼原 C に分けられる。ハンタ原の頭蓋長幅示数は 6 体算出できた。そのうちの 1 体は中頭型であるが、残りの 5 例は短頭型である。そのほかに推定値を算出することができた 3 体も短頭型である。頭蓋長幅示数の平均値は 80.87(6 例)となり、頭型は短頭型を示すが、その程度は弱く、ハンタ原縄文人の頭蓋長幅示数は港川、具志川島に近い。次に九州の縄文人と比較すると、頭蓋長幅示数は脇岬、市来より大きく、粉に近い。頭蓋水平周は 498.75 mm(4 例)で、表 4 では最小になり、ハンタ原縄文人の脳頭蓋は小さい。

第 5 表は女性の脳頭蓋の比較表である。女性は 3 例の頭蓋長幅示数が算出できたが、3 例とも短頭型に属している。まず沖縄県で比較をおこなうと、頭蓋長幅示数は 82.61(3 例)で、港川より大きい、クマヤ洞穴、具志川島ほど大きくはなく、女性の頭型は短頭型であるが、その程度は強くない。

次に九州の縄文人と比較すると、脇岬よりも大きく、津雲に近い。ハンタ原縄文人は、男女とも短頭型であるが、男性よりも女性の方がわずかに短頭性が強い。また、頭蓋水平周は 495.00mm (2 例) で、港川、クマヤ、具志川島と大差なく、脇岬、津雲よりは小さく、沖縄県の女性縄文人の脳頭蓋は小さい。

(2) 顔面頭蓋

第 6 表は男性の顔面頭蓋の比較表である。まず、沖縄の縄文人と比較すると、顔の幅型を表す頬骨弓幅は [138] mm (1 例) で、真志喜安座間原の平均値に一致し、その他の資料より小さく、顔の幅は狭い。同じく顔の幅を表す中顔幅は 101.33 mm (3 例) で、沖縄の縄文人の中では最小値となり、九州の縄文人との比較では、脇岬、市来より小さく、粉にほぼ一致し、幅径は狭い。顔の高径を表す上顔高は 63.33 mm (3 例) で、具志川島、クマヤー洞穴よりはやや小さく、港川、伊礼原 C、真志喜安座真原と大差ない。また、脇岬、市来よりはかなり小さいが、粉よりも大きい。顔のプロポーションを示す上顔示数は、コルマンの上顔示数が [46.38] (1 例) で、表 6 に示す沖縄県の例の中では最大値を示すが、その値は具志川島、真志喜安座真原に近い。また、九州の縄文人との比較では市来よりはわずかに小さく、脇岬と大差ない。ウィルヒョーの上顔示数は [63.21] (3 例) で、沖縄の縄文人の中では真志喜安座真原 39-A を除くすべての縄文人よりも大きい。また、九州の縄文人との比較では、粉、脇岬よりも大きく、市来とほとんど大差ない。すなわち顔の高径は低いが、幅も狭いので、上顔示数はそれほど小さな値を示さず、顔面の低・広顔の程度は、港川、クマヤー洞穴、伊礼原 C、具志川島、真志喜安座真原ほど強くなく、むしろ市来、脇岬に近い。

第 7 表は女性の顔面頭蓋の比較表である。顔の幅径を表す頬骨弓幅は [121.00] mm (2 例) で、表 7 では最小値である。中顔幅は [95.00] mm (4 例) で、これも表 7 では最小となり、男性同様に顔の幅は狭い。顔の高径を表す上顔高は [59.00] mm (4 例) で、この平均値は九州の脇岬、津雲よりはかなり小さいが、沖縄の港川、具志川島と大差なく、上顔高はかなり低い。上顔示数は、コルマンの上顔示数が [47.51] (2 例) で、港川、具志川島だけではなく津雲よりも大きく、ウィルヒョーは [62.33] (4 例) で、この示数値も具志川島よりは大きく、脇岬よりは小さいが、津雲と大差ない。上顔高は決して高くはないが、頬骨弓幅や中顔幅が小さいので、上顔示数はそれほど小さくはならない。顔面のサイズは小さいが、そのプロポーションは沖縄の縄文人よりも津雲に近い。

第 8 表は男性の鼻根部の比較表である。鼻根彎曲示数は 77.67 (3 例) で、他の縄文人や西北九州弥生人と大差なく、鼻根部は扁平ではない。

第 9 表は女性の鼻根部の比較表である。鼻根彎曲示数は 84.66 (2 例) で、真志喜安座真原よりは大きく、具志川島と大差なく、鼻根部は男性と同様に扁平ではないが、男性ほど鼻骨の鼻骨間縫合へ向かう隆起は強くない。

2. 四肢骨

①上腕骨

第 10 表は男性上腕骨の比較表である。最大長は 298.00 mm (2 例) で、真志喜安座真原、港川、テラガマ洞穴、ガルマンドウ原洞穴、津雲よりも大きく、脇岬と大差ない。中央周は 65.85 mm (20 例)、最小周は 60.57 mm (14 例) で、例外的に骨体が太い伊礼原 E や脇岬、津雲よりは小さいが、港川、テ

ラガマ洞穴、ガルマンドウ原洞穴、真志喜安座真原よりは大きく、骨体は太い。長厚示数は 20.12(2 例)で、津雲、脇岬よりは小さく、港川、ガルマンドウ原洞穴、真志喜安座真原に近い。骨体断面示数は 69.73(21 例)で、この示数値はテラガマ洞穴 4 号、真志喜安座真原と大差なく、70.00 を下回り、骨体はかなり扁平である。

第 11 表は女性上腕骨の比較表である。最大長は 254 mm (1 例)で、表 11 では最小値となり、この 1 例の上腕骨はかなり短い。中央周は 54.82 mm (11 例)、最小周は 50.28 mm (11 例)で、両計測値とも、港川ⅡとⅢよりは大きい、港川Ⅳ、真志喜安座真原、脇岬、津雲よりは小さく、骨体は細い。骨体断面示数は 71.82(11 例)で、港川Ⅳ、真志喜安座真原、津雲に次いで小さく、女性上腕骨も男性と同じように骨体は扁平である。

②大腿骨

第 12 表は男性の大腿骨の比較表である。最大長は 412.33 mm (3 例)で、脇岬、津雲に次いで大きい。中央周は 76.48 mm (21 例)で、表 12 では最小値となり、骨体は細く、真志喜安座真原の平均値に近い。長厚示数は 19.30(3 例)となり、表 12 では最小値となり、骨体はきゃしゃで、示数値は真志喜安座真原にもっとも近い。骨体中央断面示数は 105.14(21 例)で、港川に次いで小さな値である。また、上骨体断面示数は 76.67(17 例)で、表 12 では最小値を示し、骨体上部はかなり扁平である。

第 13 表は女性の大腿骨の比較表である。最大長は 363.50 mm (2 例)で、表 13 では港川ⅡとⅣに次いで小さく、長さは短い。中央周は 68.38 mm (16 例)で、表 12 では野国 FE-2 に次いで小さく、真志喜安座真原とほとんど大差なく、骨体は細い。骨体中央断面示数は 103.87(16 例)で、脇岬、野国 FE-1 より小さく、津雲と大差ない。また、上骨体断面示数は 74.46(14 例)で、真志喜安座真原にほぼ一致し、津雲、脇岬に次いで大きい値ではあるが、示数値そのものは小さく、男性と同様骨体上部はかなり扁平である。

③脛骨

第 14 表は男性脛骨の比較表である。最大長は 339.67 cm (3 例)で、表 14 では港川Ⅰに次いで小さい。骨体周は 73.29 mm (32 例)で、伊礼原 C、テラガマ洞穴に次いで小さく、最小周は 68.73 mm (22 例)で、真志喜安座真原に次いで小さく、骨体は細い。中央断面示数は 73.61(33 例)で、野国に次いで大きく、骨体には扁平性は認められない。

第 15 表女性の脛骨の比較表である。骨体周は 64.74 mm (19 例)で、表 15 では最小値で、真志喜安座真原と大差なく、最小周は 60.88 mm (16 例)で、ガルマンドウ原洞穴に次いで小さく、骨体は細い。中央断面示数は 78.60(19 例)で、ガルマンドウ原洞、穴伊礼原 B に次いで大きな値となり、骨体には扁平性はみられない。

3. 推定身長値

第 16 表は男性の推定身長値の比較表である。大腿骨からの推定値 (Pearson 式) は 159.42 cm (4 例)で、市来の 163.46 cm (1 例)と脇岬の 162.46 cm (3 例)には及ばないが、具志川島の 155.75 cm (5 例)、港川Ⅰの 156.13 cm、粉の 157.63 cm (5 例)、真志喜安座真原の 157.21 cm (4 例)よりも大きく、津雲の 159.88 cm (13 例)、クマヤー洞穴の 160.08 cm (2 例)に近い身長値で、著しく低い値ではない。

第17表は女性の推定身長値の比較表である。大腿骨からの推定値(Pearson式)は143.55 cm(2例)で、真志喜安座真原の146.32 cm(4例)、港川Ⅲの146.56 cmよりは小さく、具志川島の143.25 cmに最も近く、また、港川Ⅱの(142.86 cm)、Ⅳの142.86 cm、沖永良部島中甫の(142.48 cm)とも大差なく、女性はかなり低身長値である。なお、摩文仁ハンタ原の2例は141.70 cm(FE-02)と145.39 cm(08FE-09)で、1例は著しく低い。安座間原では4例について身長値を算出することができた。その値は、142.86 cm(No.10)、144.81 cm(No.21)、148.50 cm(No.29)、149.09 cm(No.16)で、4例の平均値は146.32 cmであるが、その値を検討すれば、145 cm以下のかかなりの低身長とそれ以上の西北九州弥生人なみの個体が同数存在することがわかる。具志川島の1例も143.25 cmのかかなりの低身長である。従って、沖縄の女性縄文人については、身長が146 cm以下の著しい低身長グループと146 cm～150 cmのグループが存在することになり、ハンタ原の女性は前者のグループに属していることになる。

要 約

沖縄県糸満市字摩文仁ハンタ原に所在する摩文仁ハンタ原遺跡の2007年から2010年の発掘調査で出土した人骨の人類学的観察と計測をおこない、以下の結果を得た。

1. 今回報告するのは2007年から2010年の発掘調査で出土した人骨のうち、人骨が最も集積した集骨3を中心にしたもので、縄文時代後期に属する人骨である。残存人骨のうち最も量が多いのは下顎骨で、少なくとも85体分存在する。
2. 男性の頭蓋長幅示数は80.87(6例)、女性は82.61(3例)となり、男女ともに頭型は短頭型であるが、短頭性は男女ともに著しく強いものではない。脳頭蓋の径は小さい。
3. 男性の上顔示数は〔46.38〕(K)(1例)、〔63.21〕(V)(3例)で、女性の上顔示数は〔47.51〕(2例)(K)、〔62.33〕(4例)(V)となり、男女とも低顔である。男女とも顔面の高径は低いが、幅径がそれ以上に小さいので、上顔示数はそれほど小さくはない。
4. 上下両顎の歯槽の観察が多数可能であったが、風習的抜歯は認められない。摩文仁ハンタ原縄文後期人集団には抜歯風習はなかったと思われる。
5. 男性の上腕骨は、沖縄の縄文人としては長さが長く、骨体の径も大きく、骨体はかなり扁平である。一方、女性上腕骨は長さが短く、骨体は細く、男性同様骨体はかなり扁平である。
6. 男性の大腿骨も長さは沖縄の縄文人としては長く、骨体はやや細い。しかし、粗線や骨体両側面の後方への発達と比較的良好で柱状性が認められるものも存在し、骨体上部も扁平である。一方、女性大腿骨は長さが短く、骨体も細いが、骨体両側面の後方への発達は良好で、骨体上部はかなり扁平である。
7. 男性の脛骨は、骨体の径が小さく、骨体には扁平性は認められない。女性脛骨は沖縄の縄文人としては骨体の径が大きく、骨体は扁平ではない。沖縄では、縄文人脛骨は男女とも扁平性がかなり弱いか、ほとんど認められないという本土(九州・本州・四国)とは異なった脛骨形態が認められるようである。
8. 男性について、上腕骨と大腿骨の中央周の比(上腕骨/大腿骨)を算出してみると、港川が73.49、ガルマンドウ79.42、真志喜安座間原82.66、摩文仁ハンタ原86.10となり、本例は大腿骨

体の大きさに比べて、上腕骨が太いという特徴が認められる。女性では、港川 73.10、真志喜安座間原 84.01、ハンタ原 80.16 となり、女性は男性ほど上腕骨は太くない。

9. 大腿骨からの推定身長値は、男性は 159.42 cm (4 例)、女性は 143.55 cm (2 例) で、男性は木綿原弥生人 (158.57 cm) や西北九州弥生人なみ (158.79 cm) の身長で、それほど低くはないが、女性は著しく低身長である。

10. 屈強でかなり大柄の男性が複数体存在することを示唆する頭蓋や尺骨、橈骨が存在する。

11. 摩文仁ハンタ原遺跡からは 85 体 (下顎骨からの推定) を超える縄文後期人骨が多種多様な貝製装身具類とともに出土した。これらは沖縄本島南部の先史時代を解明するための貴重な資料であるが、人骨は、沖縄では出土数の少ない縄文人骨であるだけに、琉球列島におけるヒトの形質の変遷を明らかにするための貴重な資料となるものである。今回は紙幅の都合で詳しい計測値を掲載することができなかったが、今後も出土人骨の詳細な研究を継続し、全容を明らかにしていくなかで公表していきたい。

《参考文献》

1. Baba, H., b. Endo, 1982 : Postcranial Skeleton of the Minatogawa Man. The Minatogawa Man (The university Tokyo, bulletin, 19) : 61-195.
2. 金岡丈夫、1929 : 沖縄県那覇市外城嶽貝塚より発見せる人類大腿骨に就いて。人類学雑誌、44 : 217-230.
3. 清野謙次・他、1926a : 津雲貝塚人人骨の人類学的研究 第二部 頭蓋骨の研究 (前編)。人類学雑誌、41 : 95-140.
4. 清野謙次・他、1926b : 津雲貝塚人人骨の人類学的研究 第二部 頭蓋骨の研究 (後編)。人類学雑誌、41 : 151-208.
5. 清野謙次・他、1928a : 津雲貝塚人人骨の人類学的研究 第三部 上肢骨の研究。人類学雑誌、43、第 3 付録 : 179-301.
6. 清野謙次・他、1928b : 津雲貝塚人人骨の人類学的研究 第四部 下肢骨の研究。 其一 人類学雑誌、43、第 4 付録 : 303-390.
7. Martin-Saller, 1957 : Lehrbuch der Anthropologie. Bd.1. Gustav Fischer Verlag, Stuttgart : 429-597.
8. 松下孝幸・他、1983 : 山口県豊浦郡豊北町土井ヶ浜遺跡出土の人骨。土井ヶ浜遺跡第 7 次発掘調査概報 (豊北町埋蔵文化財調査報告 2) : 19-30.
9. 松下孝幸、1984 : 鹿児島県知名町 (沖永良部島) 中甫洞穴出土の人骨。中甫洞穴 (鹿児島県知名町埋蔵文化財発掘調査報告書) : 33-58.
10. 松下孝幸・他、1989a : 沖縄県北谷町クマヤ洞穴出土の古人骨 (縄文時代晩期相当期人骨) (会)。解剖学雑誌、64 : 362.
11. 松下孝幸・他、1989b : 沖縄県北谷町伊礼原 B 遺跡出土の人骨。伊礼原 B 遺跡 - 旧メイモスカラー地区雨水排水施設工事に係る発掘調査 - (北谷町文化財調査報告書第 8 集) : 39-48.
12. 松下孝幸・他、1990 : 沖縄県浦添市城間古墓群出土の近世人骨。城間古墓群 - 牧港補給地区開発工事に伴う緊急発掘調査 - : 75-112.
13. 松下孝幸・他、1992 : 沖縄県宜野湾市真志喜安座間原遺跡出土の縄文・弥生時代人骨。謝名 II (真志喜土地区画整理事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 [1]) (宜野湾市文化財調査報告書第 15 集) : 第 5 章 : 1-99.
14. 松下孝幸・他、1993 : 沖縄県具志川島遺跡群出土の古人骨。具志川島遺跡群 (伊是名村文化財調査報告書第 9 集) : 215-244.
15. 松下孝幸、2001c : シャレコウベが語る、日本人のルーツと未来、長崎新聞社 (長崎新聞社新書)。
16. 松下孝幸、2003a : 沖縄県読谷村木綿原遺跡出土の弥生時代人骨。南島考古、No. 22 : 67-108.
17. 松下孝幸、2004 : 「自然人類学」『環境考古学ハンドブック』 : 444-454. 朝倉書店
18. 松下孝幸、2006 : 宜野湾市嘉和テラガマ洞穴遺跡出土の縄文・グスク時代人骨。嘉和テラガマ洞穴遺跡 (宜野湾市文化財調査報告書第 35 集) : 81-102.
19. 松下孝幸、2007a : 沖縄県北谷町伊礼原遺跡出土の縄文人骨。伊礼原遺跡 (北谷町文化財調査報告書第 26 集) :

- 467-479.
20. 松下孝幸、2007b：沖縄県具志頭村ガルマンドウ原洞穴遺跡出土の人骨。土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム研究紀要第2号：38-62.
21. 松下孝幸・他、2008a：沖縄県北谷町伊礼原E遺跡出土の縄文人骨。伊礼原B遺跡伊礼原E遺跡（北谷町文化財調査報告書第27集）：214-223.
22. 松下孝幸・他、2008b：沖縄県北谷町伊礼原D遺跡出土の古人骨（1）。伊礼原D遺跡（北谷町文化財調査報告書第28集）：212-220.
23. 松下真実、2009：沖縄県糸満市摩文仁ハンタ原遺跡出土の縄文人骨。土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム研究紀要第4号（沖縄県糸満市摩文仁ハンタ原遺跡発掘調査報告（1））：42-57.
24. 内藤芳篤、1977：杣洞穴出土の縄文時代人骨略報。大分県杣洞穴発掘調査概要一第1・2次調査一。考古学論叢、4：99-109.
25. 鈴木 尚、1963：日本人の骨。岩波書店、東京。

第9表 鼻根部（女性、mm、度）(Table 9. Comparison of female nasal root measurements and indices)

		摩文仁ハンタ原 縄文後期人 沖縄県 糸満市 (松下・他)		具志川島 縄文人 沖縄県 伊是名村 (松下・他)		真志喜安座間原 縄文晩期～弥生人 沖縄県 宜野湾市 (松下・他)	
		n	M	n	M	n	M
50.	前眼窩間幅	2	19.50	3	23.00	5	18.40
50A.	鼻根横弧長	2	23.00	3	27.67	2	23.00
50/50A	鼻根彎曲示数	2	84.66	3	83.16	2	78.03
57.	鼻骨最小幅	2	11.50	3	10.00	1	9
44.	両眼窩幅	1	98.00	3	99.00	5	96.60
50/44	眼窩間示数	1	21.43	3	23.23	4	19.54
a.	前頭突起上幅(右)	2	11.50	3	11.00	5	9.20
	(左)	2	10.00	3	11.00	2	8.50
b.	前頭突起水平傾斜角	1	75	3	79.67	2	73.00
c.	G-N投影距離	2	3.00	3	2.33	3	2.67
d.	鼻根角	-	-	-	-	-	-
e.	G-R距離	-	-	-	-	-	-
f.	垂線高	-	-	-	-	-	-
f/e	鼻根陷凹示数	-	-	-	-	-	-
77.	鼻頬骨角	2	150.00	-	-	-	-
Fa	fmo間距離	2	94.00	-	-	-	-
Fh	垂線高	2	12.50	-	-	-	-
Fh/Fa	顔面扁平示数	2	13.29	-	-	-	-

第8表 鼻根部（男性、mm、度）(Table 8. Comparison of male nasal root measurements and indices)

		摩文仁ハンタ原 縄文後期人 沖縄県 糸満市 (松下・他)		クマヤー洞穴 縄文晩期人 沖縄県 北谷町 (松下・他)		伊礼原C 縄文晩期人 沖縄県 北谷町 (松下)		具志川島 縄文人 沖縄県 伊是名村 (松下・他)		安座間原 縄文晩期～弥生人 沖縄県 宜野湾市 (松下・他)			西北九州 弥生人 (松下)	
		n	M	n	M	SK-1	n	M	n	M	39-A	n	M	
0.	前眼窩間幅	3	19.33	2	21.50	—	2	19.50	4	19.75	20	14	18.79	
0A.	鼻根横弧長	3	25.00	2	27.00	—	2	26.00	2	26.00	29	13	24.39	
0/50A	鼻根彎曲示数	3	77.67	2	79.53	—	2	75.04	2	79.24	68.97	13	76.72	
7.	鼻骨最小幅	—	—	—	—	—	2	9.50	4	10.75	13	13	10.23	
4.	両眼窩幅	1	100	1	102	—	2	100.00	5	98.40	101	19	102.37	
0/44	眼窩間示数	1	20	1	19.61	—	2	19.52	4	20.08	19.80	16	18.12	
	前頭突起上幅(右)	2	10.00	1	10	12	2	9.50	6	9.33	10	15	8.60	
	(左)	2	10.50	1	10	—	2	9.00	3	9.33	9	17	8.88	
	前頭突起水平傾斜角	2	64.50	—	—	—	2	69.50	1	98	—	12	84.83	
	G-N投影距離	2	2.50	—	—	1	2	4.00	5	2.20	—	24	2.33	
	鼻根角	—	—	—	—	—	1	136	3	126.0	135	9	129.78	
	G-R距離	—	—	—	—	—	1	27	3	23.67	28	9	26.11	
	垂線高	—	—	—	—	—	1	5	3	5.00	5	9	4.89	
e	鼻根陷凹示数	—	—	—	—	—	1	18.52	3	21.07	17.86	9	18.48	
7.	鼻頬骨角	2	147.50	—	—	152	—	—	—	—	—	—	—	
a	fmo間距離	2	100.00	—	—	100	—	—	—	—	—	—	—	
h	垂線高	2	14.50	—	—	12	—	—	—	—	—	—	—	
h/Fa	顔面扁平示数	2	14.50	—	—	12.00	—	—	—	—	—	—	—	

第4表 脳頭蓋計測値 (男性、mm) (Table 4. Comparison of male calvarial measurements and indices)

	摩文仁ハンタ原		港 川		クマヤ一洞穴		伊礼原C		具志川島		真志喜安座間原		市 来		脇 岬		粉	
	n	M	I	n	M	n	SK-I	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n
1. 頭蓋最大長	11	175.27	182	4	175.75	169	-	4	180.75	7	174.14	183	1	185	4	188.75	5	177.80
8. 頭蓋最大幅	6	140.67	148	6	145.33	154	-	4	146.25	6	146.83	151	1	147	5	147.20	5	143.60
17. バジオン・ブレグマ高	2	137.00	134	2	143.50	-	-	3	141.33	2	137.00	-	1	144	-	-	5	133.80
8/1 頭蓋長幅示数	6	80.87	81.3	4	82.58	91.12	-	4	80.92	6	84.78	82.51	1	79.46	4	76.63	5	80.88
17/1 頭蓋長高示数	2	78.72	73.6	1	81.50	-	-	3	78.37	2	78.14	-	1	77.94	-	-	5	75.39
17/8 頭蓋幅高示数	2	97.84	90.5	2	96.71	-	-	3	95.94	2	92.65	-	1	97.96	-	-	5	93.27
1+8+17/3 頭蓋モズルス	2	150.33	154.7	1	152.33	-	-	3	156.33	2	153.50	-	1	158.67	-	-	5	151.73
23. 頭蓋水平周	4	498.75	523	2	522.50	515	-	4	525.25	4	511.75	535	1	530	4	534.25	5	512.40
24. 横弧長	4	321.50	303	4	327.25	324	-	4	335.00	4	320.25	339	1	331	4	325.75	5	311.20
25. 正中矢状弧長	3	367.67	358	1	384	-	-	3	373.33	2	368.50	384	1	389	-	-	3	367.33

第6表 顔面頭蓋 (男性、mm、度) (Table 6. Comparison of male facial measurements and indices)

	摩文仁ハンタ原		港 川		クマヤ一洞穴		伊礼原C		具志川島		真志喜安座間原		市 来		脇 岬		粉	
	n	M	I	n	M	n	SK-I	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	
45. 頬骨弓幅	1	[138]	144	-	-	-	[146]	3	142.67	5	138.00 (137)	1	140	1	149	-	-	
46. 中顔幅	3	[101.33]	105	1	106	-	-	2	[104.50]	2	103.50	105	1	104	2	107.00	4	101.00
47. 顔高	-	-	107	-	-	-	-	2	119.00	3	112.67	124	1	116	2	118.50	4	111.50
48. 上顔高	3	63.33	63	1	65	63	-	2	65.50	3	62.33	71	1	66	2	71.50	3	61.33
47/45 顔示数(K)	-	-	74.3	-	-	-	-	2	82.37	3	80.83 (90.51)	1	82.86	1	79.33	-	-	
48/45 上顔示数(K)	1	[46.38]	43.8	-	-	43.15	-	2	45.35	2	45.37 (51.82)	1	47.14	1	46.67	-	-	
47/46 顔示数(V)	-	-	101.9	-	-	-	-	2	[113.89]	2	106.71	118.10	1	111.54	1	105.45	4	110.46
48/46 上顔示数(V)	3	[63.21]	60.0	1	61.32	-	-	2	[62.66]	2	59.84	67.62	1	63.46	1	61.82	3	58.27
40+45+47/3 顔面モズルス	-	-	117.7	-	-	-	-	2	121.00	1	111.67	-	1	120.00	-	-	-	-
50. 前眼窩間幅	3	19.33	19	2	21.50	-	-	2	19.50	4	19.75	20	1	20	1	17.4	4	18.75
44. 両眼窩幅	1	100	112	1	102	-	-	2	100.00	5	98.40	101	1	100	2	101.35	4	100.25
50/44 眼窩間示数	1	20	17.0	1	19.61	-	-	2	19.52	4	20.08	19.80	1	20.00	1	16.04	4	18.68
51. 眼窩幅(右)	3	44.00	45	1	43	42	-	2	43.00	6	41.00	43	1	41	1	47	4	44.00
52. 眼窩高(右)	2	32.00	30	1	31	(30)	-	2	34.00	3	30.33 (32)	1	31	3	33.33	4	32.00	
52/51 眼窩示数(右)	2	74.42	66.7	1	72.09	(71.43)	-	2	79.06	3	74.05 (74.72)	1	75.61	1	75.56	4	72.78	
54. 鼻幅	3	25.67	(26)	1	28	26	-	2	25.00	3	24.00	27	1	25	2	29.50	1	23
55. 鼻高	4	51.75	49	1	52	50	-	2	50.50	4	48.75	54	1	51	2	55.00	4	49.25
54/55 鼻示数	3	50.20	(53.1)	1	53.85	52.00	-	2	49.53	3	49.55	50.00	1	49.02	2	53.64	1	46.00
72. 全側面角	1	79	-	1	85	-	-	2	89.00	3	82.00	86	1	73	2	79.00	3	80.33
73. 鼻側面角	1	79	-	1	87	-	-	2	91.00	3	84.33	89	1	73	2	80.50	4	85.00
74. 齒槽側面角	1	81	-	1	70	-	-	2	82.50	3	73.00	77	1	73	2	73.50	3	69.00

第5表 脳頭蓋計測値（女性、mm）(Table 5. Comparison of female calvarial measurements and indices)

	摩文仁ハンタ原				港川人				クマヤー洞穴				具志川島				脇岬				津雲			
	n	M	II	IV	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
1. 頭蓋最大長	6	173.00	166	176	2	171.0	5	169.60	3	167.00	3	167.00	5	176.00	18	175.7								
8. 頭蓋最大幅	3	141.00	134	138	2	136.0	4	145.25	3	141.67														
17. バジオン・ブレグマ高	1	132	-	115	1	115	3	136.67	2	134.50	1	128	14	126.1										
8/1 頭蓋長幅示数	3	82.61	80.7	78.4	2	79.6	4	86.15	3	84.83	5	77.39	18	80.8										
17/1 頭蓋長高示数	1	79.04	-	65.3	1	65.3	2	80.64	2	81.77	1	71.91	14	71.5										
17/8 頭蓋幅高示数	1	96.35	-	83.3	1	83.3	1	93.75	2	97.21	1	95.52	4	89.43										
1+8+17/3 頭蓋モズルス	1	145.33	-	143.0	1	143.0	1	149.00	2	145.84														
23. 頭蓋水平周	2	495.00	488	(502)	2	495.0	3	496.67	3	496.67	3	505.67	14	506.0										
24. 横弧長	2	312.50	304	(296)	2	300.0	4	314.75	3	319.00	4	304.25	19	298.4										
25. 正中矢状弧長	1	349	-	349	1	149	2	360.50	1	352	2	361.00	12	358.7										

第7表 顔面頭蓋（女性、mm、度）(Table 7. Comparison of female facial measurements and indices)

	摩文仁ハンタ原				港川人				クマヤー洞穴				具志川島				脇岬				津雲			
	n	M	II	IV	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
45. 頬骨弓幅	2	[121.00]	(140)	(132)	2	(136.0)							3	[131.67]							9	132.8		
46. 中顔幅	4	[95.00]	-	-		-	1	(98)					2	97.50	12	100.8								
47. 顔高		-	-	(105)	1	(105)							4	113.00	9	103.3								
48. 上顔高	4	[59.00]	-	(58)	1	(58)							3	59.33	3	64.67	10	63.1						
47/45 顔示数(K)		-	-	-		-																		
48/45 上顔示数(K)	2	[47.51]	-	(43.9)	1	43.9							3	[45.17]							6	78.1		
47/46 顔示数(V)		-	-	-		-															6	48.1		
48/46 上顔示数(V)	4	[62.33]	-	-		-							3	[58.96]	1	72.04	8	62.8						
40+45+47/3 顔面モズルス		-	-	-		-																		
50. 前眼窩間幅	2	19.50	20	-		-							3	23.00	1	18.4	11	18.2						
44. 両眼窩幅	2	96.50	-	-		-							3	99.00	2	91.95								
50/44 眼窩間示数	2	20.19	-	-		-							3	23.23							8	18.8		
51. 眼窩幅(左)	2	40.33	-	-		-							2	41.50							10	41.6		
52. 眼窩高(左)	2	30.33	-	-		-							3	32.33							7	33.0		
52/51 眼窩示数(左)	2	77.21	-	-		-							3	77.15							7	81.0		
54. 鼻幅	3	23.67	-	(24)	1	(24)							3	26.33	3	24.33	11	25.4						
55. 鼻高	3	45.00	-	(46)	1	(46)							3	45.00	4	49.50	11	45.2						
54/55 鼻示数	3	53.43	-	(52.2)	1	(52.2)							3	58.67	3	46.97	10	56.1						
72. 全側面角	2	83.00	-	-		-							3	85.33	4	80.50	10	81.8						
73. 鼻側面角	2	83.50	-	-		-							3	87.67	4	82.00	10	86.6						
74. 齒槽側面角	2	82.00	-	-		-							3	77.67	4	74.00	11	69.6						

第 10 表 上腕骨計測値 (男性、右、mm)

(Table 10. Comparison of measurements and indices of male right humeri)

	摩文仁ハンタ原 縄文後期人 沖縄県 糸満市 (松下・他)		港川 旧石器人 沖縄県 八重瀬町 (馬場・他)		テラガマ洞穴 縄文中期以前 沖縄県 宜野湾市 (松下)		ガムントウ原洞穴 縄文晩期人 沖縄県 具志頭村 (松下)		伊礼原E 貝塚時代早期人 沖縄県 北谷町 (松下・他)		真志喜安座間原 縄文晩期～弥生人 沖縄県 宜野湾市 (松下・他)		脇 岬 縄文後期人 長崎県 野母崎町		津 雲 縄文人 岡山県 笠岡市 (清野・他)	
	n	M	I	4号	5号	n	M	Y-1	n	M	n	M	n	M	n	M
1. 上腕骨最大長	2	298.00	287	-	-	1	296	-	2	276.50	3	298.67	15	292.0		
5. 中央最大径	21	23.43 (左)	20.5	23 (左)	18 (左)	5	22.20 (左)	27(左)	11	22.82	-	-	20	23.9		
6. 中央最小径	21	16.29 (左)	15.5	16 (左)	12 (左)	5	16.00 (左)	22(左)	12	16.08	3	18.67	20	17.5		
7. 骨体最小周	14	60.57	58	57 (左)	-	4	59.75 (左)	72(左)	11	58.91	5	66.20	20	65.2		
7(a). 中央周	20	65.85 (左)	61	64 (左)	51 (左)	5	63.60 (左)	79(左)	11	64.00	3	73.67	19	70.1		
6/5 骨体断面示数	21	69.73 (左)	75.6	69.57 (左)	66.67 (左)	1	72.44 (左)	81.48(左)	11	69.36	3	75.10	20	72.7		
7/1 長厚示数	2	20.12	20.2	-	-	1	20.27	-	2	20.91	3	21.98	15	22.8		

第 11 表 上腕骨計測値 (女性、右、mm)

(Table 11. Comparison of measurements and indices of female right humeri)

	摩文仁ハンタ原 縄文人 沖縄県 糸満市 (松下・他)		港川人 縄文人 沖縄県 具志頭村 (鈴木)		真志喜安座間原 縄文晩期～弥生人 沖縄県 宜野湾市 (松下・他)		脇 岬 縄文後期人 長崎県 長崎市 (内藤)		津 雲 縄文人 岡山県 笠岡市 (清野・他)		
	n	M	II	III	IV	n	M	n	M	n	M
1. 上腕骨最大長	1	254	261	((275))(左)	((282))	3	256.67	4	271.50 (左)	13	266.2
5. 中央最大径	11	19.09 (左)	17	17	21	15	20.53	4	19.25 (左)	25	20.4
6. 中央最小径	11	13.64 (左)	13	12.5	14	15	14.00	4	15.25 (左)	25	14.0
7. 骨体最小周	11	50.28 (左)	48	49	55	14	54.50	7	53.29 (左)	23	55.3
7(a). 中央周	11	54.82 (左)	49	51	59	15	57.73	4	57.25 (左)	25	58.6
6/5 骨体断面示数	11	71.82	76.5	73.5	67	15	68.34	4	79.32 (左)	26	69.0
7/1 長厚示数	1	22.44	18.4	((17.1))	((20.0))	3	20.33	3	18.85	13	20.5

第 16 表 推定身長値 (男性、右、cm) (Table 16. Comparison of estimated male statures)

	摩文仁ハンタ原 縄文後期人 沖縄県 糸満市 (松下・他)			港川人 旧石器人 沖縄県 八重瀬町 (鈴木)			クマヤー洞穴 縄文晩期人 沖縄県 北谷町 (松下・他)			ガムラン洞原洞穴 縄文晩期人 沖縄県 八重瀬町 (松下・他)			具志川島 縄文人 沖縄県 伊是名村 (松下・他)			真志喜安座間原 縄文晩期～弥生人 沖縄県 宜野湾市 (松下・他)			市 来 縄文人 鹿児島県 市木市 (内藤・他)			脇 岬 縄文後期人 長崎県 長崎市 (松下・他)			粉 縄文後期人 大分県 本耶馬溪町 (内藤・他)			津 雲 縄文人 岡山県 笠岡市 (清野・他)			
	n	M	I	n	M	I	n	M	I	n	M	I	n	M	I	n	M	I	n	M	I	n	M	I	n	M	I	n	M	I	
Pearsonの式	上腕骨	4	156.74			153.70				1	156.30					2	150.66													15	154.99
	腕骨		-			156.25					-					2	158.22													12	162.93
	大腿骨	4	159.42			156.13		2	160.08					5	155.75		4	157.21		1	163.46		3	162.46		5	157.63		13	159.88	
	脛骨	4	158.20			-						-					-													7	159.52
藤井の式	上腕骨	4	156.67			153.32				1	155.83					2	150.39														
	腕骨		-			153.74					-					2	155.68														
	大腿骨	4	157.51			153.06										4	154.63					3	161.50								
	脛骨	5	157.05			153.53											-														

第 17 表 推定身長値 (女性、右、cm) (Table 17. Comparison of estimated female statures)

	摩文仁ハンタ原 縄文人 沖縄県 糸満市 (松下・他)		港川人 旧石器人 沖縄県 八重瀬町 (鈴木)		具志川島 縄文人 沖縄県 伊是名村 (松下・他)		真志喜安座間原 縄文晩期～弥生人 沖縄県 宜野湾市 (松下・他)		中 甫 縄文人 鹿児島県 知名町 (松下)	
	n	M	II	III	IV	n	M	n	M	1号人骨
Pearsonの式	1	141.43	143.35	(147.21)	(149.14)	3	(146.57)	-	3	141.70
上腕骨	1	141.43	143.35	(147.21)	(149.14)	3	(146.57)	-	3	141.70
腕骨	1	141.43	143.35	(147.21)	(149.14)	3	(146.57)	-	3	141.70
大腿骨	2	143.55	(142.86)	146.56	142.86	3	(144.09)	1	143.25	147.08
脛骨	2	143.55	(142.86)	146.56	142.86	3	(144.09)	1	143.25	(142.48)
藤井の式	1	141.75	143.42	(147.22)	(148.42)	3	(146.35)	-	3	142.08
上腕骨	1	141.75	143.42	(147.22)	(148.42)	3	(146.35)	-	3	142.08
腕骨	1	141.75	143.42	(147.22)	(148.42)	3	(146.35)	-	3	142.08
大腿骨	2	142.47	(141.72)	145.94	141.68	3	(143.11)	-	4	148.61
脛骨	2	142.47	(141.72)	145.94	141.68	3	(143.11)	-	4	148.61

第12表 大腿骨計測値（男性、右、mm）(Table 12. Comparison of measurements and indices of male right femora)

	摩文仁・ハンタ原		港 川		渡具知東原		ガルマン・ドウ原洞穴		伊礼原C		真志喜安座間原		脇 岬		津 雲	
	n	M	I	FE-1	n	M	n	M	FE-1	n	M	n	M	n	M	
1. 最大長	3	412.33	398 (左)	-	-	-	2	407.00 (左)	-	2	434.50 (左)	13	418.2			
2. 自然位全長	3	407.67	393 (左)	-	-	-	2	404.50 (左)	-	2	427.50 (左)	13	414.2			
6. 骨体中央矢状径	21	24.71	26.5	28 (左)	6	26.00	27	14	25.93 (左)	2	30.50 (左)	19	29.3			
7. 骨体中央横径	21	23.57	26	23 (左)	6	24.50	25	14	23.29 (左)	2	26.50 (左)	19	25.5			
8. 骨体中央周	21	76.48	83	81 (左)	6	79.50	82	14	77.43 (左)	2	90.50 (左)	19	86.8			
9. 骨体上横径	17	27.41	29	28 (左)	6	28.67	29	13	27.85 (左)	5	31.80	21	30.5			
10. 骨体上矢状径	17	21.00	23	23 (左)	5	23.00	24	13	21.62 (左)	5	25.00	21	24.2			
8/2. 長厚示数	3	19.30	21.1 (左)	-	-	-	-	2	19.89 (左)	2	21.18 (左)	13	21.1			
6/7 骨体中央断面示数	21	105.14	101.9	121.74 (左)	6	106.73	108.00	13	112.12 (左)	2	115.17 (左)	19	114.6			
10/9 上骨体断面示数	17	76.67	79.3	82.14 (左)	5	80.57	82.76	12	78.49 (左)	5	78.68	21	79.5			

第13表 大腿骨計測値（女性、右、mm）(Table 13. Comparison of measurements and indices of female right femora)

	摩文仁・ハンタ原		港 川		野国良塚B		真志喜安座間原		脇 岬		津 雲		
	縄文後期人		旧石器人		縄文前期人		縄文晩期～弥生人		縄文後期人		縄文人		
	沖縄県	糸満市	沖縄県	八重瀬町	沖縄県	嘉手納町	沖縄県	宜野湾市	長崎県	長崎市	岡山県	笠岡市	
	(松下・他)		(馬場・他)		(松下)		(松下・他)		(内藤)		(清野・他)		
	n	M	II	III	IV	n	M	FE-1	FE-2	n	M	n	M
1. 最大長	2	363.50	(360) (左)	379	360	-	-	-	-	3	374.00	4	377.25
2. 自然位全長	2	358.50	-	376	358	-	-	-	-	3	369.00	3	378.00
6. 骨体中央矢状径	16	22.06	21 (左)	24	21	2	22.50	24(左)	19	2	21.50	4	24.75
7. 骨体中央横径	16	21.25	22 (左)	23.5	23	2	23.25	23(左)	21	2	22.00	4	23.25
8. 骨体中央周	16	68.38	69 (左)	74	71	2	72.50	74(左)	63	2	68.50	4	75.50
9. 骨体上横径	14	25.29	25 (左)	26.5	26	2	26.25	21(左)	25	2	23.00	7	28.71
10. 骨体上矢状径	14	18.79	18 (左)	19	18.5	2	18.75	-	17	1	17	7	21.71
8/2 長厚示数	2	19.95	-	19.7	19.8	2	19.75	-	-	3	18.80	3	20.29
6/7 骨体中央断面示数	16	103.87	95.5 (左)	102.1	91.3	2	96.70	104.35 (左)	90.48	2	97.42	4	106.67
10/9 上骨体断面示数	14	74.46	72.0 (左)	71.7	71.2	2	71.45	-	68.00	1	68.00	7	75.73
												25	76.6

第14表 脛骨（男性、右、mm）(Table 14. Comparison of measurements and indices of male right tibiae)

	摩文仁ハンタ原		港 川		野 国		伊礼原C		テラガマ洞穴		ガルマン洞原洞穴		真志喜安座間原		脇 岬		粉		津 雲	
	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M
1. 脛骨全長	2	343.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	345.67 (左)	7	345.9	7	345.9
1a. 脛骨最大長	3	339.67	(322)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	353.00 (左)	7	368.46	8	349.5
8. 中央最大径	32	26.53	27	-	29	(左)	26	-	26	-	5	29.00	7	28.71	3	33.00 (左)	11	31.00	19	32.1
9. 中央横径	32	19.44	19	-	22	(左)	18	-	18	-	5	20.00	7	19.43	3	20.33 (左)	11	20.18	19	19.6
10. 骨体周	32	73.29	78	-	80	(左)	70	-	71	-	5	78.00	7	76.43	3	86.67 (左)	11	81.27	19	83.8
10b. 最小周	22	68.73	71	-	-	-	-	-	-	-	5	71.00	5	67.80	4	76.25	11	73.64	15	77.4
9/8 中央断面示数	33	73.61	70.4	-	75.86	(左)	69.23	-	69.23	-	5	69.32	7	67.80	3	61.65 (左)	11	65.41	19	61.5
10b/1 長厚示数	2	21.03	(21.4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	21.93 (左)	7	20.18	7	22.4

第15表 脛骨（女性、右、mm）(Table 15. Comparison of measurements and indices of female right tibiae)

	摩文仁ハンタ原				港 川				伊礼原B				ガルマン洞原洞穴				真志喜安座間原				脇 岬				粉				津 雲			
	縄文後期人				旧石器人				縄文後期人				縄文後期人				縄文晩期～弥生人				縄文後期人				縄文前期人				縄文人			
	沖縄県糸満市(松下・他)				沖縄県八重瀬町(馬場・他)				沖縄県北谷町(松下・他)				沖縄県具志頭村(松下・他)				沖縄県具志頭市(松下・他)				長崎県長崎市(内藤)				大分県本耶馬溪町(松下)				岡山県笠岡市(清野・他)			
	n	M			Ⅲ	Ⅳ	n	M	1号	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M	n	M					
1. 脛骨全長	-	-	298	(297)	1	298	-	-	-	-	-	2	308.50	4	310.50	4	310.50	4	310.50	4	310.50	14	318.1	14	318.1	14	318.1					
1a. 脛骨最大長	-	-	304	(301)	1	304	-	-	-	-	-	2	315.50	4	315.75	4	315.75	4	315.75	4	315.75	3	329.33	14	322.7	14	322.7					
8. 中央最大径	19	22.68	26	23	2	24.50	25	3	22.67	13	23.15	4	24.50	6	26.00	22	26.8	22	26.8	22	26.8	22	26.8	22	26.8	22	26.8					
9. 中央横径	19	17.79	17	16	2	16.50	19	3	18.00	14	17.57	4	18.25	6	18.67	22	17.7	22	17.7	22	17.7	22	17.7	22	17.7	22	17.7					
10. 骨体周	19	64.74	70	66	2	68.00	71	3	65.23	13	64.92	4	68.50	6	71.17	22	72.3	22	72.3	22	72.3	22	72.3	22	72.3	22	72.3					
10b. 最小周	16	60.88	65	61	2	63.00	-	1	60	10	62.00	4	63.00	5	65.60	19	67.1	19	67.1	19	67.1	19	67.1	19	67.1	19	67.1					
9/8 中央断面示数	19	78.60	65.4	69.6	2	67.50	79.00	3	79.42	13	76.33	4	74.54	6	71.82	23	65.4	23	65.4	23	65.4	23	65.4	23	65.4	23	65.4					
10b/1 長厚示数	-	-	21.8	(20.5)	1	21.80	-	-	-	-	-	2	20.60	4	20.30	3	20.33	13	21.0	13	21.0	13	21.0	13	21.0	13	21.0					

第18表 脳頭蓋 (男性、mm) (Calvaria)

	頭蓋最大長	頭蓋最大幅	バジオン・ブレグマ高	頭蓋長幅示数	頭蓋長高示数	頭蓋幅高示数	頭蓋モズルス	頭蓋底長	最小前頭幅	最大前頭幅	両耳幅	最大後頭幅	乳突幅	大後頭孔長	大後頭孔幅	大後頭示数	頭蓋水平間	横弧長	正中矢状弧長	正中矢状前頭弧長	正中矢状後頭弧長	正中矢状前頭弧長	正中矢状後頭弧長	正中矢状頂頂弦長	正中矢状後頭頂弦長	矢状前頭示数	矢状後頭示数	平均値				σ	Min	Max	
																												SK-1	SK-2	SK-3	SK-01				SK-02
1.	182	176	179	170	178	-	-	-	177	171	(182)	180	174	-	-	-	168	173	-	11	175.27	4.45	168	-	182	-	-	-	-	-	-	-	-		
8.	143	142	[146]	141	-	-	-	-	143	137	(149)	(148)	-	-	-	-	138	-	-	(12)	175.83	4.67	168	-	182	-	-	-	-	-	-	-	-		
17.	-	-	-	-	-	-	-	-	141	133	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(9)	143.00	4.12	137	-	149	-	-	-	-	-	-	-	-		
8/1	78.57	80.68	[81.56]	82.94	-	-	-	-	80.79	80.12	(81.87)	(82.22)	-	-	-	-	82.14	-	-	6	80.87	1.54	78.57	-	82.94	-	-	-	-	-	-	-	-		
17/1	-	-	-	-	-	-	-	-	79.66	77.78	-	-	-	-	-	-	-	-	-	(9)	81.21	1.33	78.57	-	82.94	-	-	-	-	-	-	-	-		
17/8	-	-	-	-	-	-	-	-	98.60	97.08	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	78.72	1.33	77.78	-	79.66	-	-	-	-	-	-	-	-		
1+8+17/3	-	-	-	-	-	-	-	-	153.67	147.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	97.84	1.33	97.08	-	98.60	-	-	-	-	-	-	-	-		
5.	-	-	-	-	-	-	-	-	107	97	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	150.33	1.33	147.00	-	153.67	-	-	-	-	-	-	-	-		
9.	100	103	-	94	97	-	-	-	99	88	-	102	99	-	100	-	-	-	-	9	98.00	4.58	88	-	103	-	-	-	-	-	-	-	-		
10.	123	123	-	-	-	-	-	-	122	115	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	120.75	3.86	115	-	123	-	-	-	-	-	-	-	-		
11.	122	131	-	-	130	-	-	-	130	121	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	126.80	4.87	121	-	131	-	-	-	-	-	-	-	-		
12.	114	108	-	-	-	-	-	-	113	112	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	111.75	2.63	108	-	114	-	-	-	-	-	-	-	-		
13.	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	106	-	-	-	114	-	-	-	-	-	-	-	-		
7.	-	-	-	106	-	-	-	-	34	33	-	-	-	-	30	-	-	-	-	3	32.33	2.08	30	-	34	-	-	-	-	-	-	-	-		
16.	-	-	-	-	-	-	-	-	31	-	-	-	-	31	-	-	-	-	-	2	31.00	-	31	-	31	-	-	-	-	-	-	-	-		
16/7	-	-	-	-	-	-	-	-	91.18	-	-	-	-	103.33	-	-	-	-	-	2	97.25	-	91.18	-	103.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
23.	522	207	-	-	-	-	-	-	517	449	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	498.75	33.75	449	-	522	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
24.	325	330	[332]	[300]	[344]	[324]	[306]	-	318	313	-	[324]	[308]	-	-	-	-	-	-	4	321.50	7.51	313	-	330	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
25.	376	-	-	-	-	-	-	-	365	362	-	-	-	-	-	-	-	-	-	[11	320.36	12.92	300	-	344	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
26.	117	125	133	121	129	-	-	-	118	118	125	-	123	-	-	-	-	-	-	3	367.67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
27.	139	127	-	125	-	124	117	128	125	128	130	-	132	142	-	138	127	126	129	15	129.70	5.36	117	-	133	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
28.	124	-	-	-	-	-	-	-	122	116	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	120.67	-	116	-	124	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
29.	104	109	113	109	109	-	-	-	103	104	111	-	107	-	-	-	-	-	-	10	107.20	3.55	103	-	113	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
30.	122	113	-	111	-	109	104	114	112	112	116	-	117	125	-	123	109	110	112	15	113.93	5.78	104	-	125	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
31.	103	-	-	-	-	-	-	-	103	101	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	102.33	-	101	-	103	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
29/26	88.89	87.20	84.96	-	84.50	-	-	-	87.29	88.14	88.80	-	86.99	-	-	-	87.29	-	-	10	87.41	1.72	84.50	-	90.08	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
30/27	87.77	88.98	-	90.08	-	87.90	88.89	89.06	89.60	87.50	89.23	-	88.64	88.03	-	89.13	85.83	87.30	86.82	15	88.23	1.05	85.83	-	89.60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
31/28	83.06	-	-	88.80	-	-	-	-	84.43	87.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	84.85	-	83.06	-	87.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第 19 表 脳頭蓋 (女性、mm) (Calvaria)

	摩文仁 摩文仁 摩文仁 摩文仁 摩文仁 摩文仁 摩文仁 摩文仁 摩文仁 摩文仁 摩文仁 摩文仁 摩文仁 摩文仁 摩文仁 摩文仁 摩文仁															
	08SK-06 女性		08SK-07 女性		08SK-08 女性		08SK-10 女性		09SK-01 女性		09SK-02 女性		09SK-03 女性		09SK-11 女性	
	183	-	-	-	-	-	-	-	167	173	172	168	172	175	-	-
1. 頭蓋最大長	-	-	-	-	-	-	-	-	137	144	142	-	-	-	-	-
8. 頭蓋最大幅	-	-	-	-	-	-	-	-	132	-	-	-	-	-	-	-
17. バジオン・プレグマ高	-	-	-	-	-	-	-	-	82.04	83.24	82.56	-	-	-	-	-
8/1 頭蓋長幅示数	-	-	-	-	-	-	-	-	79.04	-	-	-	-	-	-	-
17/1 頭蓋長高示数	-	-	-	-	-	-	-	-	96.35	-	-	-	-	-	-	-
17/8 頭蓋幅高示数	-	-	-	-	-	-	-	-	145.33	-	-	-	-	-	-	-
1+8+17/3 頭蓋モズルス	-	-	-	-	-	-	-	-	96	-	-	-	-	-	-	-
5. 頭蓋底長	-	-	-	-	-	-	-	-	96	98	-	-	-	96	90	-
9. 最小前頭幅	-	-	-	-	-	-	-	-	110	116	112	-	-	-	111	-
10. 最大前頭幅	-	-	-	-	-	-	-	-	118	124	-	-	-	-	-	-
11. 両耳幅	-	-	-	-	-	-	-	-	101	104	-	-	-	-	-	-
12. 最大後頭幅	-	-	-	-	-	-	-	-	99	101	-	-	-	-	-	-
13. 乳突幅	-	-	-	-	-	-	-	-	34	-	-	-	-	-	-	-
7. 大後頭孔長	-	-	-	-	-	-	-	-	29	-	-	-	-	-	-	-
16. 大後頭孔幅	-	-	-	-	-	-	-	-	85.29	-	-	-	-	-	-	-
16/7 大後頭示数	-	-	-	-	-	-	-	-	485	505	-	-	-	-	-	-
23. 頭蓋水平周	-	-	-	-	-	-	-	-	307	318	[318]	[302]	-	-	-	-
24. 横弧長	[302]	[314]	-	-	-	-	-	-	349	127	120	116	120	-	-	-
25. 正中矢状弧長	115	124	120	124	129	124	129	123	108	109	106	103	125	127	120	114
26. 正中矢状前頭弧長	-	-	-	-	-	-	-	-	102	109	106	103	125	127	120	114
27. 正中矢状頭頂弧長	-	-	-	-	-	-	-	-	108	-	-	-	-	-	-	-
28. 正中矢状後頭弧長	-	-	-	-	-	-	-	-	102	109	106	103	125	127	120	114
29. 正中矢状前頭弧長	103	-	105	-	105	-	-	-	102	109	106	103	125	127	120	114
30. 正中矢状頭頂弧長	118	110	107	113	113	113	113	111	111	114	112	108	112	113	-	-
31. 正中矢状後頭弧長	-	-	-	-	-	-	-	92	92	-	-	-	-	-	-	-
29/26 矢状前頭示数	89.57	-	87.50	-	87.50	-	-	86.44	85.83	88.33	88.33	88.79	88.33	-	(39.47)	-
30/27 矢状頭頂示数	90.77	88.71	86.29	87.60	87.60	87.60	87.60	90.94	89.06	89.60	89.60	90.00	89.60	88.98	-	-
31/28 矢状後頭示数	-	-	-	-	-	-	-	85.19	-	-	-	-	-	-	-	-

第20表 顔面頭蓋 (男性、mm、度) (Facial skeleton)

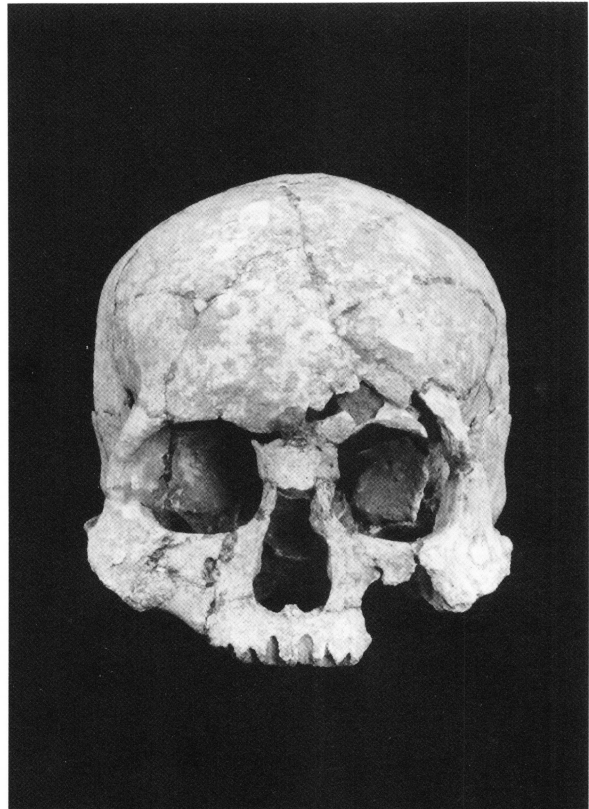
	平均値									
	摩文仁 SK-1	摩文仁 SK-2	摩文仁 SK-3	摩文仁 08SK-01	摩文仁 08SK-02	摩文仁 08SK-05	摩文仁 08SK-06	摩文仁 10SK-03	n	σ
40. 顔長	-	-	-	-	-	106	-	-	1	106
41. 側顔長	70 (右)	70	77	-	-	73	-	-	4	72.50 3.32
42. 下顔長	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
43. 上顔幅	-	-	-	108	97	111	107	-	4	105.75 6.08
45. 頬骨弓幅	[138]	-	-	-	-	-	-	-	[1	138]
46. 中顔幅	[100]	-	-	-	-	(92)	-	-	[3	101.33
47. 顔高	-	-	-	-	-	-	-	-	3	63.33
48. 上顔高	(64)	63	64	-	-	63	-	-	[4	63.50 0.58
47/45 顔示数(K)	-	-	-	-	-	-	-	-	[1	46.38]
48/45 上顔示数(K)	[46.38]	-	-	-	-	-	-	-	-	-
47/46 顔示数(V)	-	-	-	-	-	-	-	-	[3	63.21 5.71
48/46 上顔示数(V)	[64.00]	-	[57.14]	-	-	(68.48)	-	-	-	-
40+45+47/3 顔面モズルス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
50. 前眼窩間幅	18	20	-	-	-	20	-	-	3	19.33
44. 前眼窩幅	-	-	-	-	-	100	-	-	1	100
50/44 眼窩間示数	-	-	-	-	-	20.00	-	-	3	44.00
51. 眼窩幅(右)	46	-	43	-	-	43	-	-	2	43.50
52. 眼窩高(左)	(30)	-	30	-	-	34	-	-	[3	31.33
(左)	(32)	-	-	-	-	33	-	-	1	33
52/51 眼窩示数(右)	(65.22)	-	69.77	-	-	79.07	-	-	[2	32.50
(左)	-	-	-	-	-	-	-	-	2	74.42
54. 鼻幅	28	-	-	-	-	78.57	-	-	[3	71.35
55. 鼻高	49	51	53	-	-	24	-	-	1	78.57
54/55 梨状口高	57.14	49.02	-	-	-	54	-	-	3	25.67
55(1). 鼻骨長	-	-	-	-	-	44.44	-	-	4	51.75
56. 鼻骨最大幅	-	-	-	-	-	-	-	-	3	50.20
57(1). 鼻骨最小幅	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
57. 鼻骨最大幅	-	-	-	-	-	-	-	-	1	12
60. 上顎歯槽長	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-
61. 口蓋長	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
62. 口蓋幅	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
61/60 上顎歯槽示数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
63/62 口蓋示数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
64/63 全側面角	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
72. 鼻側面角	-	-	-	-	-	-	-	-	1	79
73. 齒槽側面角	-	-	-	-	-	-	-	-	1	79
74. 齒槽側面角	-	-	-	-	-	81	-	-	1	81

第21表 顔面頭蓋 (女性、mm、度) (Facial skeleton)

	平均値									
	摩文仁 09SK-01	摩文仁 09SK-02	摩文仁 09SK-03	摩文仁 09SK-04	摩文仁 10SK-09	n	M	σ	Min.	Max.
40. 顔長	96	-	-	-	-	1	96	-	-	-
41. 側顔長	63	70	-	-	-	2	66.50	-	63	70
42. 下顔長	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
43. 上顔幅	102	[108]	[122]	[110]	100	2	101.00	-	100	102
45. 頬骨弓幅	[122]	-	-	[120]	-	[5	108.40	8.65	100	122]
46. 中顔幅	[100]	86	[104]	[90]	-	[2	121.00	-	120	122
47. 顔高	-	-	-	-	-	1	86	-	-	-
48. 上顔高	60	59	62	(55)	-	[4	95.00	8.41	86	104]
47/45 顔示数(K)	-	-	-	-	-	3	60.33	-	59	62
48/45 上顔示数(K)	[48.18]	-	-	-	-	(4	59.00	2.94	55	62)
47/46 顔示数(V)	-	-	-	[45.83]	-	[2	47.51	-	45.83	49.18]
48/46 上顔示数(V)	[60.00]	68.60	[59.62]	[61.11]	-	1	68.60	-	59.62	68.60]
40+45+47/3 顔面モズルス	-	-	-	-	-	4	62.33	4.23	-	-
50. 前眼窩間幅	-	18	-	21	-	2	19.50	-	18	21
44. 前眼窩幅	[102]	95	-	98	-	2	96.50	-	95	98
50/44 眼窩間示数	-	18.95	-	21.43	-	[3	96.33	-	95	102]
51. 眼窩幅(右)	-	42	-	41	-	2	41.50	-	18.95	21.43
(左)	40	39	-	42	-	3	40.33	-	39	42
52. 眼窩高(右)	-	31	-	30	-	2	30.50	-	30	31
(左)	31	30	30	-	-	3	30.33	-	30	31
52/51 眼窩示数(右)	-	73.81	-	73.17	-	2	73.49	-	73.17	73.81
(左)	77.50	76.92	-	-	-	2	77.21	-	76.92	77.50
54. 鼻幅	25	-	24	22	-	3	23.67	-	22	25
55. 鼻高	45	47	47	41	-	4	45.00	2.83	41	47
54/55 梨状口高	55.56	-	51.06	53.66	-	3	53.43	-	51.06	55.56
55(1). 鼻骨長	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
56. 鼻骨最小幅	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
57. 鼻骨最大幅	-	11	-	12	-	2	11.50	-	11	12
57(1). 鼻骨最大幅	-	-	-	(19)	-	(1	19)	-	50	52
60. 上顎歯槽長	52	-	-	50	-	2	51.00	-	50	52
61. 上顎歯槽幅	59	-	-	59	-	2	59.00	-	59	59
62. 口蓋長	45	-	-	41	-	2	43.00	-	41	45
63. 口蓋幅	34	-	-	34	-	2	34.00	-	34	34
64. 口蓋高	12	-	-	11	-	2	11.50	-	11	12
61/60 上顎歯槽示数	113.46	-	-	118.00	-	2	115.73	-	113.46	118.00
63/62 口蓋示数	75.56	-	-	82.93	-	2	79.24	-	75.56	82.93
64/63 口蓋示数	35.29	-	-	35.35	-	2	33.82	-	32.35	35.29
72. 全側面角	80	86	-	-	-	2	83.00	-	80	86
73. 鼻側面角	82	85	-	-	-	2	83.50	-	82	85
74. 齒槽側面角	78	86	-	-	-	2	82.00	-	78	86



頭蓋上面 (Superior view of the Skull)



頭蓋正面 (Frontal view of the Skull)



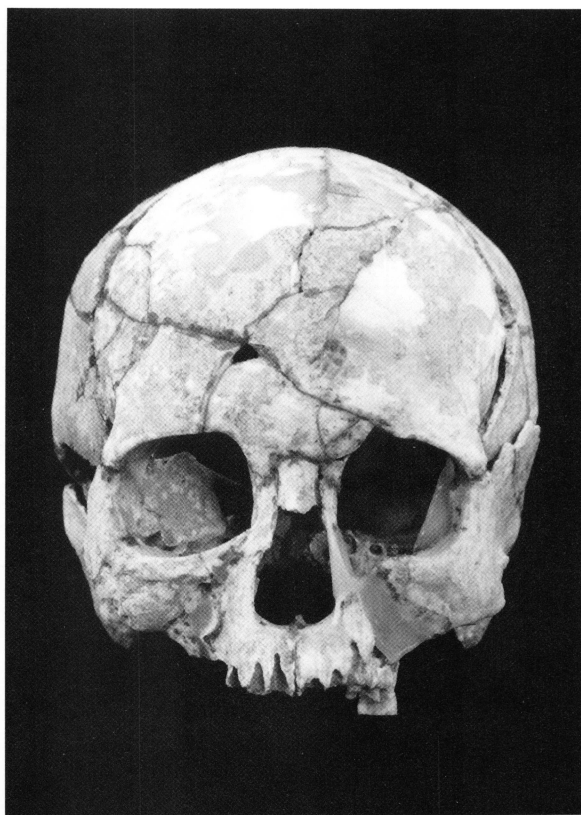
頭蓋側面 (Lateral view of the Skull)

摩文仁ハンタ原 09SK-05 (男性・壮年)

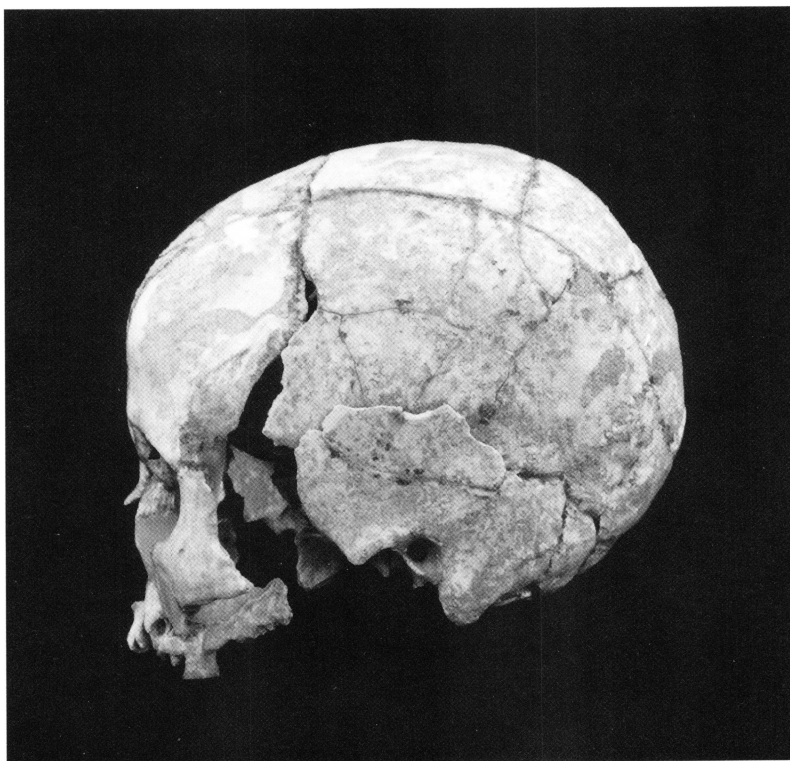
(The Mabunihantabaru 09SK-02, young adult male)



頭蓋上面 (Superior view of the Skull)



頭蓋正面 (Frontal view of the Skull)



頭蓋側面 (Lateral view of the Skull)

摩文仁ハント原 09SK-02 (女性・壮年)

(The Mabunihantabaru 09SK-02, young adult female)

報告書抄録

ふ り が な	まぶにはんたばるいせきはつくつちょうさほうこく							
書 名	摩文仁ハンタ原遺跡発掘調査報告 (2)							
副 書 名	沖縄県糸満市所在の摩文仁ハンタ原遺跡発掘調査報告							
巻 次								
シ リ ー ズ 名	土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム 研究紀要							
シリーズ番号	第6号							
編 著 者 名	松下孝幸 湖城清 大城一成 松下真実							
編 集 機 関	土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム							
所 在 地	〒759-6121 山口県下関市豊北町大字神田上891-8							
発 行 年 月 日	西暦2011年3月31日							
ふ り が な	ふ り が な	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所 収 遺 跡 名	所 在 地	市町村	遺跡番号	° / ′ ″	° / ′ ″			
まぶに 摩文仁ハン タ原遺跡	おきなわけんいとまんし 沖縄県糸満市 あざまぶに 字摩文仁ハンタ ばる ばんち 原547番地	47210		26° 05′ 25″	127° 43′ 05″	20070702～ 20070710 20080707～ 20080711 20090710～ 20090717 20100623～ 20100628	5㎡	学術調査
所 収 遺 跡 名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
摩文仁ハン タ原遺跡	岩陰	縄文後期	石囲墓 (平安時代) 集骨 (縄文時代後期)		土器 石器 貝製品 人骨		埋葬遺構 豊富な貝製品 出土	

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム

研究紀要

第6号

発行年月日	2011年3月31日
編集・発行	土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム 〒759-6121 山口県下関市豊北町神田上 891-8 TEL 083-788-1841・1842 FAX 083-788-1843
印刷	アリフク印刷株式会社 〒759-5101 山口県下関市豊北町栗野 4896-8 TEL 083-785-0311 FAX 083-785-0312
